

令和7年度使用

中学校教科用図書の
選定に必要な資料

教科用図書益田採択地区協議会

各発行者の記号は以下のとおりである。

- A 東京書籍
- B 大日本図書
- C 教育図書
- D 開隆堂
- E 学校図書
- F 三省堂
- G 教育出版
- H 教育芸術社
- I 光村図書
- J 帝国書院
- K 大修館
- L 啓林館
- M 山川出版
- N 数研出版
- O 日本文教
- P Gakken
- Q 自由社
- R 育鵬社
- S 学び舎
- T あかつき
- U 日本教科書
- V 令和書籍

選 定 に 必 要 な 資 料

(国語) No. 1

記号	選定に必要な資料の観点					総括	
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 教科横断的及び学校行事等とのつながりへの工夫		6. その他
A	<p>○読み物の教材の文章量が多いものは、いわゆる名作のもの、なじみやすい作品の両方が選ばれて、豊かな読みを設定している。併せて読書案内を展開している。(1年p. 40-, 190-, 2年p. 32-, 184-)</p> <p>○「対話の学び」を設定し、学習のねらいを明確にしている。(2年p. 46, 112)</p>	<p>○「読むこと」の学習が「話すこと」「聞くこと」の学習に展開し3つの領域で一貫させ、学習の定着をねらっている。(1年p. 126-133)</p> <p>○てびきでは、学習の深化をねらい、3ステップで段階的に進められるよう工夫されている。(1年p. 46)</p>	<p>○1年生ではやや大きめのサイズの文字が使われており、小中の学習の接続に配慮がなされている。(1年p. 28, 162)</p> <p>○現代的・世界的課題であるSDGsの項目に係る教材が設定され、興味・関心を促したり、具体的な課題について知識を得たりできるように考えられている。(1年p. 220-, 2年p. 56)</p>	<p>○学習の手助けとして組み込まれているキャラクターたちの設定も多様性に配慮している。(1年p. 22-24)</p> <p>○多様性にも配慮がなされ、教材の著者に偏りが起こらないように、性別や年齢等にも配慮がなされている。(1年p. 2-5, 2年p. 2-5, 3年p. 2-5)</p>	<p>○他教科の学習に関係が設定されている教材の下部に鎖のマークと関連教科名を示して学習の広がりが示されている。(3年p. 64, 130)</p> <p>○「話す・書く」の領域では、学校生活を想定して「スピーチ・プレゼンテーション」「レポート・新聞」を取り上げ学びを生活に関連づけられるよう工夫されている。(1年p. 68-, 174, 3年p. 64, 172)</p>	<p>○デジタル・コンテンツが準備されている内容については二次元コードのそばにコンテンツの項目を記して学習者にわかりやすい配慮がなされている。(2年p. 63)</p> <p>○自分の機器を用いて、家庭でもコンテンツを利用し、学習に取り組むことが可能である。(1年p. 21, 38)</p>	<p>○各学年の巻末には、現代社会の課題に関する題材を多角的に取り上げ、さらに現在活躍している人物の文章を取り上げ関心を持ちやすくしている。(1年p. 220, 2年p. 216, 3年p. 214)</p> <p>○「言葉の力」という項目を配置し、語句の知識に限らず、使用語彙の獲得にも配慮がなされている。(1年p. 24, 48)</p>
F	<p>○「領域別教材一覧」のつけたい力と本編の目標を対応させることで授業のねらいが明確になるよう工夫されている。(1年p. 6-11, p. 36-39)</p> <p>○巻末の資料編の参考資料には、「学習用語辞典」「小倉百人一首」「用紙の書き方」などの内容が掲載され、学習の確認と理解の深化につながるよう工夫されている。(1年p. 318-)</p>	<p>○「読み方を学ぼう」では、学び方を図解し、思考の順序やポイントを分かりやすく示している。また、巻末に図解のページを再度まとめて掲載し、学習の確認広がり役に立てやすくしている。(1年p. 78, 86, 106)</p> <p>○SDGsや防災など現代的な課題について考えることができる。(1年p. 148, 3年p. 64)</p>	<p>○「読書」に関して幅広いジャンルから作品が選択され、学習者たちになじみのある人の体験記を掲載して興味関心を高めている。(1年p. 94, 2年p. 88)</p> <p>○論説文の教材では、環境問題など現代的な課題について積極的に取り上げている。(2年p. 48, 3年p. 100)</p>	<p>○「古事記」の掲載によって、古典の学習から本県にゆかりのある内容につながる。(1年p. 280-285)</p> <p>○各学年とも、読み物教材では、人間の生き方、悩み・葛藤など道徳的価値を含む作品が配置されている。(1年p. 172-, 2年p. 170-, 3年p. 172-)</p>	<p>○「書く」「話す・聞く」の領域の学習は、他教科の学習に関わる内容を取り上げ、学習の関連性を示している。(1年p. 98)</p> <p>○音節、語順、慣用表現について、英語と比較しながら言葉の性質や特徴を考えるコーナーを設定している。(1年p. 329, 2年p. 247, 3年p. 163)</p>	<p>○対話の活動とグループディスカッションの活動を示す工夫がなされ、学習の深まりにつながる構成がなされている。(1年p. 36)</p> <p>○「線は、僕を描く」では、同じ内容の小説と漫画を掲載し、比較しながら読み、それぞれの描き方や特徴を捉えながら読むユニークな構成がなされている。(3年p. 252-259)</p>	<p>○「学びの道しるべ」を設定し、各単元で何について学んでいるか明確にし、自分の考えを深めている手立てとなるよう構成されている。さらに対話を促す設定も含まれている。(1年p. 54)</p> <p>○「思考の方法」では9つの方法をクローズアップしており、図解を示してイメージでもとらえられるよう工夫されている。(1年p. 16, 84, 88)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
G	<p>○1年の入門期には領域ごとに学びをスモールステップ化しており、小学校から中学校への学習の引継ぎがスムーズにいくよう工夫されている。(1年p. 16-47)</p> <p>○教材ごとにその教材の読み方や読むときの視点、学習のポイントが「学びナビ」として示しており、生徒が目的意識をもって取り組めるよう工夫されている。(3年p. 18-19)</p>	<p>○古典では杜甫、李白の漢詩と「おくのほそ道」を3年に配置し、互いのつながりを捉え、作品の理解が深まるよう工夫されている。(3年p. 118-140)</p> <p>○説明文では、多様な現代的な話題をとりあげ、SDGs教材を設け、課題解決能力を育み、考えを深める工夫がされている。(1年p. 80, 3年p. 231)</p>	<p>○「情報・メディアと表現」では、漫画を掲載することで興味関心をもって学習に取り組み、表現の特徴や読み手に対する効果を考えるよう工夫されている。(1年p. 232-235)</p> <p>○「学びのチャレンジ」では行事や他教科等とのつながりを意識した題材を取り入れ、学習意欲が高まるよう工夫されている。(2年p. 211-224)</p>	<p>○近代文学作家の作品を解説とともに掲載し、高等学校への学びとつなげている。また「広がる本の世界」では3年間334冊の本を27回にわたって紹介しており、読書への意欲が高まるよう工夫されている。(2年p. 160-164)</p> <p>○巻末に「言葉の自習室」や思考ツールなどがまとめられており、自主的な学びに活用できるよう工夫されている。(1年p. 311-324)</p>	<p>○「情報・メディアと表現」の「実用文の情報を捉えて生かす」では、取扱説明書やちらしなど取り上げ、学んだことを実生活で生かせるよう工夫されている。(3年p. 110-113)</p> <p>○「話すこと・聞くこと」「書くこと」の教材の最後にある「学びを生かす」では、具体的な実践例が示しており、学んだことを生活に生かせるよう工夫されている。(2年p. 69)</p>	<p>○ページの上段で解説している内容を、図解や文章構成図として可視化することで、生徒の理解が促されるよう工夫されている。(1年p. 36)</p> <p>○生徒キャラクターの会話や、日常生活で用いる言葉など、親しみをもてる例を豊富に取り入れ、興味をもたせるよう工夫されている。(2年p. 66)</p>	<p>○SDGs教材を全学年に設け、生徒が課題を発見し、考えを深めることができるよう工夫されている。(3年p. 222-231)</p> <p>○教材や学習活動の前に「学びナビ」を設置することで「何をどのように学ぶか」の見通しをもって学習に取り組めるよう工夫されている。(2年p. 16-17)</p>
I	<p>○「複数の意見を読んで、考えよう」では、正解が一つに決まらない課題に対して、複数の文章を読み比べることを通して自分の意見を確立することができるよう工夫されている。(3年p. 130-133)</p> <p>○全学年で「持続可能な開発目標(SDGs)」と情報を関連づけた単元が設定されており、現代の諸課題について主体的に考えられるよう工夫されている。(2年p. 76-77)</p>	<p>○「学びへの扉」では「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三観点で振り返りができるように工夫されている。(3年p. 50)</p> <p>○教科書で学習するにあたり、教科書の構成や機能、音読・発表の仕方、ノート例、辞典等の使い方などが巻頭に載せてあり、学習がスムーズに進むよう配慮されている。(1年p. 11-20)</p>	<p>○古典の学習では、登場人物や全体像を解説するコラム、分かりやすい図解が掲載され、両観音開き構造でビジュアル資料を拡充し、生徒の想像力を刺激する紙面となっている。(3年p. 158-161)</p> <p>○各教材のページに「漢字の練習」や「学びの地図」などの二次元コードが載せてあり、タブレットを使った自主的な学習が促されるよう工夫されている。(3年p. 25, 55)</p>	<p>○各学年の最後に、それまでの学びをタブレットやパソコンで確認する教材が配置されており、一年間で身に付けた力の定着が図れるよう工夫されている。(1年p. 262)</p> <p>○巻頭折込ページに「思考の地図」と題し、発達の段階に応じた思考ツールが紹介されており、場面や目的に応じて活用することで自分の考えを深められるよう工夫されている。(1年p. 9-10)</p>	<p>○巻末の「語彙ブック」は、思考や感情を的確に言語化するための教材となっており、授業の中や日常生活、他教科のレポート等にも活用できる仕様になっている。(2年p. 267-274)</p> <p>○「実用的な文章を読む」では、資源ごみの分別についてのウェブページやポスターが掲載されており、実生活において情報をどう活用するか考える教材となっている。(3年p. 76-77)</p>	<p>○「本の世界を広げよう」では3年間計477冊の本を紹介することで、読書への意欲を喚起する工夫がされている。(2年p. 87-89)</p> <p>○社会、科学、芸術、言葉、情報など幅広い題材が取り上げられており、様々な考えに触れ知的好奇心をかきたてられるよう工夫されている。(2年p. 166, 3年p. 172, 1年p. 176)</p>	<p>○学習の流れや重点がひとめで分かるレイアウトになっており、写真やイラスト、図表などは境目をはっきりと示すなど、誰もが使いやすいユニバーサルデザインとなっている。(1年p. 50, 3年p. 265)</p> <p>○巻末に「ICT活用のヒント」が載っており、効果的な一人一台端末の活用ができるよう、350点以上のコンテンツが収録されており、個別最適な学びの助けとなる。(2年p. 340-341)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(書写) No. 1

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
A	<p>○B5変型判で、拡大したら半紙と同じサイズとなる。各学年の学習内容を示した104ページに続き、日常生活における活用例を紹介した「書写活用ブック」41ページ、計145ページで構成されている。</p> <p>○主な毛筆教材は1年で楷書1、行書2教材と書き初め、2年は行書3教材と書き初め、3年は書き初めのみとなっている。硬筆教材として国語科教科書掲載の小説・古文が各1教材ある他に、毛筆と関連付けて学習する教材が掲載されている。</p>	<p>○1年で「身につける」2年で「使い分ける」3年で「使いこなす」と3年間を通して系統的に学習を進め、日常生活での活用につなげられる構成となっている。(p. 2-3)</p> <p>○1年の楷書「大志」から行書「日光」「大空」へと、読みやすく、かつ速く書けるようになるポイントが発展的に学べる題材が選ばれている。(p. 14, 28-30)</p>	<p>○文字を整えて書くための汎用的なポイントを「書写のかぎ」として配置し、既習事項との関連を見直しやすく、かつ1時間の学習内容を分かりやすく示している。(p. 14, p. 26, 28)</p> <p>○手紙やのし袋の書き方、ポスターや新聞形式によるまとめ方など、日常生活に直結した書き方が具体的に示されているほか、高校書道部の活躍の紹介など、興味・関心をもてるよう工夫されている。(p. 40-41, 「書写活用ブック」p. 1-14, p. 104)</p>	<p>○「文字といっしょに」では石州半紙や熊野筆が取り上げられ、伝統的な文字文化に興味・関心をもてるよう工夫されている。(p. 58-59)</p> <p>○「身の回りの文字の目的と工夫」では、学校や地域のさまざまな場所で見られる文字に関心を高められる写真が掲載されており、その工夫に気付いたり、生徒が主体的に書くことに取り組めるよう配慮されている。(p. 72-75)</p>	<p>○「教科関連マーク」を付すことで、国語科や他教科等の学習と関連付けて学ぶことができるよう工夫されている。(p. 22, 34「書写活用ブック」p. 10-11)</p> <p>○「職場訪問をしよう」「地域の行事に参加しようー防災訓練ー」など他教科や特別活動と関連する教材や、「文字の移り変わり」など他教科と関連している単元・教材には、教科関連マークを付して、確認しやすい工夫がなされている。(p. 39-41, 65-67, 34)</p>	<p>○教科書教材と連動したデジタルコンテンツが用意されており、二次元コードで利用しやすく、一人一台端末を活用して対面やオンライン、家庭での自学自習にも活用できるよう配慮されている。(p. 4, 10, 15ほか)</p> <p>○特別支援教育の観点から、配色やユニバーサルデザインフォントを使用した語のまとまりがわかるよう文節で改行したりするなどの配慮がなされている。また、硬筆では手本と書く欄を上下に(または左右両方に)配置し、右利きでも左利きでも書きやすいよう工夫されている。(p. 12-13)</p>	<p>○学習のポイント「書写のかぎ」に示されたキーワードについて、見つけよう、確かめよう、生かそうの3ステップで学習を進め、振り返りまで進められるよう単元の学習過程が工夫されている。</p> <p>○行書の「動きのパターン」と「形の特徴」を、4つの基本的な文字で修得し、組み合わせさせて応用できるよう工夫されている。(p. 26)</p>
F	<p>○毛筆で学んだことを硬筆に生かすための練習ページには、必要な情報やポイントが分かりやすく書かれていて、集中して硬筆練習しやすいよう工夫がされている。(1年p. 18-21)</p> <p>○左ページに手本が大きく書かれてあり、右ページに目標や書き方のポイントがまとめられているので、理解しやすい工夫がされている。(1年p. 34-35、2年p. 46-49)</p>	<p>○楷書の「天地」、行書の「名月」、「元気」「探究」は、基本的な筆使いも練習ができ、徐々に難易度が高くなっている題材が選ばれている。(1年p. 16-17, 35-39)</p> <p>○どこに気をつけて、どのように書けばよいか、具体的な書き方のポイントを言葉と図で解説されていて、分かりやすく工夫がされている。(1年p. 34, 2年p. 46, 巻末折り込み)</p>	<p>○平仮名は漢字を簡略化して作られた流れが分かりやすく紹介されているので、普段使っている文字の歴史に興味・関心をもてるように工夫がされている。(1年p. 24-25, 2年p. 56-57)</p> <p>○手紙、封筒、はがき、送り状、のし袋、願書、原稿用紙の書き方の説明が分かりやすく書かれていて、実社会で活用できるように興味・関心もちやすく工夫がされている。(3年p. 78-83)</p>	<p>○毛筆紙面左上の二次元コードより、真上から撮影した毛筆の運筆動画を視聴できるので、生徒全員に理解しやすい工夫がされている。(1年p. 16, 2年p. 47, 3年p. 76)</p> <p>○筆順の意義や原則、気をつけたい筆順の字が分かりやすく掲載されていて、あく書かれていて、実社会で見直せるよう工夫がされている。(1年p. 23)</p>	<p>○「グループ新聞を作る」、「情報誌を作る」、「名言集を作ろう」と、学習したことを生かした活動が提案されている。(1年p. 44-45, 2年p. 64-65, 3年p. 74-75)</p> <p>○1年国語「竹取物語」「故事成語」、2年国語「枕草子」「平家物語」、3年国語「おくのほそ道」「坊ちゃん」に関連する語句や文章が行書で書かれている文字をなぞる活動をすることで、学習内容に奥行きが出るよう工夫がされている。(1年p. 42-43, 2年p. 58-59, 3年p. 72-73)</p>	<p>○書き込み欄が豊富にあり、学びを確かなものにするよう工夫がされている。(1年p. 18-21, 2年p. 58-61, 3年p. 72-73)</p> <p>○色覚の特性を考慮して、誰にでも見やすく、学びやすい配色となるよう工夫がされている。(1年p. 12-13)</p>	<p>○見開きで構成され、ひとめで分かる学習内容になっているので、ポイントに気をつけながら主体的に学習を進められるよう工夫がされている。</p> <p>○他教科の学習や日常生活でも活用できるように、書き込み欄が豊富にあるため、学習したことを書いて身につけることができる。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(書写) No.2

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
G	<p>○筆順の数字を書いているので、生徒が自分で確認しながら正しい筆順で書くことができるように配慮されている。(1年p. 20, 23-26, 27)</p> <p>○右ページに手本が大きく書かれてあり、左ページに目標や問い、応用練習や振り返りがまとめられているので、授業の中で取り組みやすく工夫されている。(1年p. 44-45, 2年p. 66-67, 3年p. 96-97)</p>	<p>○楷書の「天地」「成功」、行書の「大洋」、「栄光」「平和」は、基本的な筆使いも練習ができ、1年生にも書きやすい題材が選ばれている。(1年p. 18-21, 44-49)</p> <p>○書体の使い分けの中で、UDフォントのコラムが掲載されていて、特別支援教育を必要とする生徒へ配慮されている。(1年p. 55)</p>	<p>○行書の筆使いが理解できるように、細かい説明が書かれていて、生徒が興味・関心をもちやすく配慮されている。(1年p. 42-43)</p> <p>○手紙、一筆箋、封筒、はがきの書き方の説明が分かりやすく書かれていて、実社会で活用できるように興味・関心をもちやすく工夫されている。(3年p. 108-110)</p>	<p>○毛筆紙面右下の二次元コードより、真上から撮影した毛筆の運筆動画を視聴できるので、生徒全員に理解しやすい工夫がされている。(1年p. 18, 2年p. 66, 3年p. 96)</p> <p>○見開き2ページにわたって学習手順が明確化されており、生徒の主体的な学びができるように工夫されている。(1年p. 14, 2年p. 66, 3年p. 96)</p>	<p>○新聞や掲示物、案内状などの例が分かりやすく掲載されていて、授業や委員会などで活動する際に参考にしやすくなっている。(2年p. 90-93)</p> <p>○3年国語で学ぶ「おくのほそ道」に関連して、冒頭を硬筆でなぞったり、松尾芭蕉の俳句を小筆・筆ペンで書く活動をしたりすることで、学習内容に奥行きが出るよう工夫されている。(3年p. 98-99)</p>	<p>○横幅がA4サイズと同じにしているため、半紙形を維持した紙面になり、教材文字がイメージしやすく工夫されている。(1年p. 44, 2年p. 66, 3年p. 96)</p> <p>○教材文字や練習箇所に、中心線や中心の印が書かれていて、字形を整えることを意識しながら文字を書く工夫がされている。(1年p. 30, 2年p. 66, 3年p. 96)</p>	<p>○書き順の記載や、左利き生徒や色覚などの特性をふまえた配色、UDフォントの説明などが、全ての生徒にとって学びやすい、細かい配慮がされている。</p> <p>○学習手順が明確化されていたり、運筆動画が視聴できたり、生徒にとって分かりやすい工夫がされているため、基礎・基本の定着を図ることができる。</p>
I	<p>○B5変型判サイズで、半紙と同じ比率の手本となっている。全体は165ページで、「書写ブック」「中学校スタートブック」各学年の内容、「日常に役立つ書式」「中学生のための漢字字典」そして巻末に「書き初めマスターブック」という構成となっている。</p> <p>○主な毛筆教材は1年楷書1と行書2の3教材、2年行書3教材、3年は行書2教材となっている。硬筆教材には、国語科教科書掲載の小説・古文・和歌が掲載されている。</p>	<p>○全教材が「考えよう」「確かめよう」「生かそう」という学習の進め方で構成されており、学習のポイントを「学びのかぎ」として、何をどう学ぶか確認しやすくしている。(p. 40-41, 54-55)</p> <p>○1年の楷書「天地」から行書「大木」「日光」と、左右の払いを比較したり、行書の筆遣いの特徴が段階的に理解しやすい題材が選ばれている。(p. 40-43, 54-61)</p>	<p>○行書の書き方の4つの特徴を「行書スイッチ」として示し、行書の特徴のうち、どのポイントについて学ぶのか意識して書くことができるよう工夫されている。(p. 52-53)</p> <p>○「手書きのよさって、何だろう」「自分らしい文字」などのコラムでは、親しみやすいイラストによるマンガや著名人の手書き文字などを取り上げ、関心を深めたり実生活につなげたりしやすい題材となっている。(p. 88-89, 104-109)</p>	<p>○「全国文字マップ」では出雲大社や萩市の松下村塾の碑文等が紹介され、身の回りの文字文化やさまざまな書体への興味・関心を高めるよう工夫されている。(p. 90-93)</p> <p>○地域の特徴を反映したフォントや、ユニバーサルデザインフォントなど活字の書体に注目し、目的や相手に応じた文字の使い分けについて取り上げ、考えることができるよう工夫されている。(p. 94-97, 82-83)</p>	<p>○「書写ブック」は毛筆で学んだことを硬筆に生かし、繰り返し練習できる教材となっており、筆記欄が27ページと豊富で、ポイントを確認しやすい構成となっている。</p> <p>○「職業ガイドを作ろう」「防災フェスタを開こう」など、書写の学びを生かして他教科や地域とつなげた学びができるよう工夫されている。(p. 86, 98-99)</p>	<p>○「部分別行書一覧」「書き初めマスターブック」には名前の文字の配置が示されている。(p. 138-139, 142-143)</p> <p>○それぞれの教材に二次元コンテンツが付されており、それぞれアニメーション、動画、他の文字にもチャレンジ、などとコンテンツの内容が端的に示されていて、一人一台端末の活用と結び付けやすい。(p. 38-43)</p>	<p>○「中学書写スタートブック」や、別冊「書写ブック(硬筆練習帳)」により毛筆の学びを定着させ日常の書写にも生かしやすく、「考えよう」「確かめよう」「生かそう」の3段階の進め方で生徒が見通しをもって学習を進めやすい構成となっている。</p> <p>○人種や性の多様性に配慮した写真やイラストを配置し、道具の選び方や手入れの仕方などにSDGsの視点も取り入れて、今日的な課題に着目している。(p. 30-35, 141)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(地理) No. 1

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
A	<p>○「世界と日本の地域構成」は13時間、「世界のさまざまな地域」は40時間、「日本のさまざまな地域」は57時間の配当時数となっており、「持続可能な地域の在り方」を最後の編に含んでいる。</p> <p>○「スキル・アップ」と「資料から発見！」で、学習に必要な技能を身につけられるよう工夫されている。(p. 15, 76)</p>	<p>○内容ごとに「学習課題」「チェック」「トライ」を設け、本時の問いとそれに対するまとめができるよう工夫されている。また、「地理を学ぶ5つのミカタ」で視点を示して思考が深まるよう工夫されている。(p. 6, 10-11)</p> <p>○「世界のさまざまな地域」の単元末には、「地球的課題をふりかえろう」が設定され、広い視野で振り返ることができるよう工夫されている。(p. 75)</p>	<p>○世界や日本の各地で暮らす中学生が自分の住んでいる地域を語るコラム「聞かせて！中学生」を設け、世界を身近に感じることができるように工夫されている。(p. 60)</p> <p>○「世界の諸地域」や「日本の諸地域」の導入では、学習課題に関する写真資料を多く掲載し関心をもって課題をとらえることができるよう工夫されている。(p. 118-119, 196-197)</p>	<p>○竹島の写真と地図が掲載され隠岐の島町であること、韓国の不法占拠に日本が抗議していること、自然環境や豊かな漁業資源があることなどが工夫して記載してある。(p. 28)</p> <p>○海士町の遠隔授業や松江市のルビーを活用した地域おこし、浜田自動車道の開通による人の移動の変化等を取り上げている。(p. 199, 201, 205)</p>	<p>○歴史や公民などの他分野や他教科の関連ページに二次元コードからアクセスできるようになっており、分野や教科をつないだ学びを展開しやすいよう工夫されている。(p. 24)</p> <p>○これからの社会を考える動機づけとして、「未来にアクセス」というコラムを設け、より身近な視点で社会問題を考えることができるよう工夫されている。(p. 231)</p>	<p>○二次元コードを節の扉や「学習課題の隣等」に掲載することで生徒が主体的に情報にアクセスすることができるよう工夫されている。</p> <p>○小学校で取り上げた学習内容をふまえて、地理的な見方・考え方を説明しており、学習を進める際の視点を生徒が理解できるよう工夫されている。(p. 6)</p>	<p>○単元ごとに設けられた「探究課題」を、単元末に話し合い、深めることができるように構成されている。また、その際に思考ツールを活用し、思考力・判断力・表現力等を身につけることができるよう工夫されている。(p. 127)</p> <p>○環境・エネルギー、人権・平和など5つのテーマやSDGs等の現代的な諸課題を意識して学習を主体的に進められるよう工夫されている。(巻頭3-p. 1, 39)</p>
G	<p>○「世界と日本の地域構成」は9時間、「世界のさまざまな地域」は36時間、「日本のさまざまな地域」は58時間の配当時数となっている。地域の未来を考える「地域のあり方」を最後の編に含んでいる。</p> <p>○「地理の技」では、地図や統計資料、雨温図の基本的な扱い方が身につけられるよう工夫されている。(p. 7, 13, 27)</p>	<p>○内容ごとに「学習課題」「確認」「表現」を設けており、問いとそれに対するまとめができるよう配慮されている。「学習したことを確認しよう」「学習したことを振り返ろう」で知識・技能、思考力・判断力・表現力を高めることができるよう工夫されている。</p> <p>○単元末に学習したことを活用してまとめる欄を設けており、自分の言葉で振り返ることで学びに向かう力を高めることができるよう工夫されている。(p. 185)</p>	<p>○導入資料や追究のヒントになる資料を解説した「LOOK!」や学習内容に関するコラム「地理の窓」を設け、生徒の興味・関心を高めるよう工夫されている。(p. 6, 9)</p> <p>○折込ページでは、オリンピックの開催地とジオパークの解説を記載し、世界ならびに日本の地理の学習や地図を活用した学習への興味・関心を高める工夫がされている。(p. 128-129)</p>	<p>○島根県隠岐の島町竹島の写真と地図が掲載され、日本固有の領土であることが記載されている。また、島根県への編入の経緯や韓国が不法に占拠している現状、日本が抗議し国際社会の場で話し合いを提案しても韓国が受け入れていないことが記載されている。(p. 21)</p> <p>○石見神楽、海士町のロゴマークやかんこ舟、松江市の雨温図、三江線の代替バス、石見空港の状況が取り上げられている。(p. 186-187, 189, 192, 197)</p>	<p>○内容ごとに歴史、公民分野と関連のあるところには分野と内容が、他の地理的分野と関連のあるところには教科書内のページと内容が示されている。(p. 15)</p> <p>○震災の経験を生かすなど、6つのテーマで持続可能な社会にむけて考察できる「クロスロード」や、第4章「地域のあり方」では地域課題を考えることで社会参画への意識や、持続可能な社会の創造への意識が高まるよう工夫されている。(p. 260-261, 278-287)</p>	<p>○冒頭のページでは、地理的な見方・考え方や地球的課題とSDGs、地図のきまり等がわかりやすく説明されている。(巻頭1-2, p. 2-3)</p> <p>○各編の扉に二次元コードがあり、学習内容に関連するサイトが紹介され、学習を深めることができるよう工夫されている。(p. 5)</p>	<p>○各州の導入や六つの特設ページにSDGsで示されている17項目のアイコンが掲載されており、学習内容とSDGsがどのようにつながっているのか、把握しやすくなるよう工夫されている。(p. 60)</p> <p>○各編の冒頭に、その編や章においてどのような学習を行うのが箇条書きで整理されており、生徒が見通しをもって学習に取り組めるよう工夫されている。(p. 5)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(地理) No. 2

記号	選定に必要な資料の観点					総括	
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫		6. その他
J	<p>○「世界と日本の地域構成」は8時間、「世界のさまざまな地域」は41時間、「日本のさまざまな地域」は56時間、「地域のあり方」に5時間の配当時間となっている。</p> <p>○単元を貫く「章・節の問い」や学習課題の提示が統一されたレイアウトで配置され、単元全体の見通しがもてるよう工夫されている。(p. 2-5)</p>	<p>○内容ごとに「学習課題」「確認しよう」「説明しよう」を設け、学習課題に対するまとめができるよう配慮されている。本文横に補足や「解説」を設け、学習を深めることができるよう工夫されている。</p> <p>○単元末の「学習を振り返ろう」では、知識を確かめ、段階をふみながら、地理的な見方・考え方を働かせて振り返りができるように工夫されている。(p. 13)</p>	<p>○学習内容に関連のある話題を取り上げた「地理プラス」や環境・防災・人権など6つのコラムが掲載されており、「未来に向けて」では、学習への興味・関心を高めたり、学びを深め、広げたりすることができるよう工夫されている。(p. 83-85)</p> <p>○今昔など、比較によって地域の特徴をとらえる写真資料が多く掲載され、生徒が興味・関心をもって取り組むことができるよう工夫されている。(p. 52)</p>	<p>○我が国固有の領土である竹島の写真と地図(位置図)が掲載され、隠岐の島町への所属と島根県への編入、韓国の不法占拠等が記載されている。また、「地理プラス」で昔の竹島での漁業や竹島の日についての記載もある。(p. 21)</p> <p>○「人々を呼び寄せる地域の取り組み」で、出雲大社や石見神楽の写真、石見神楽を継承する人の話、島根県を訪れる観光客数の推移が掲載してある。(p. 194)</p>	<p>○小学校や歴史・公民分野・他教科との関連があるページの下には、分野・教科とその内容が示されており、教科、分野横断的な学習に対する配慮がある。(p. 2)</p> <p>○分野間のつながりを通して生徒が社会的事象を考えたり、学びを深めたりするために「地図帳活用」を設け、地図帳と学習内容のつながりがわかりやすくなるよう工夫されている。(p. 210)</p>	<p>○巻頭で「単元を通した学び」や「地理的な見方・考え方」「考え方を整理する方法」「地図帳を活用した学び方」等、学習のポイントが整理されている。(巻頭5-9)</p> <p>○二次元コンテンツの活用の紹介や、学習の理解を助ける動画サイトやデジタルコンテンツにつながる二次元コードが多く掲載され、学習を深めることができるよう工夫されている。(巻頭p. 6, p. 10)</p>	<p>○単元を貫く「問い」を意識しながら授業が展開できるように工夫しており、単元末には、学びを深めるために対話的な学習課題が設定されている。(p. 62-63)</p> <p>○「アクティブ地理」では、地理的な見方・考え方を働かせ対話を通して課題解決を検討する機会を設け、SDGsと関連づけながら学びのつながりを意識できるように工夫されている。(p. 90)</p>
O	<p>○「世界と日本の地域構成」は12時間、「世界のさまざまな地域」は36時間、「日本のさまざまな地域」は60時間の配当時間となっており、「地域の在り方-宮崎市を例に-」を最後の編に含んでいる。(p. 282-)</p> <p>○「スキルup」で、地理の学習に必要な技能を6種類に整理し、系統立てて習得できるように工夫されている。(巻頭9, p. 8)</p>	<p>○内容ごとに「学習課題」「確認」「表現」を設け本時の問いに対するまとめをしながら学習内容を深めることができるよう工夫されている。(p. 8-9)</p> <p>○単元末の学習のまとめでは、様々な思考ツールを用いて自分の考えをまとめることができるようになっており、「議論してみよう」では、学習内容の理解を深める主体的・対話的な学びに迫るための問いが用意されている。(p. 249)</p>	<p>○学習に関連のある話題を取り上げた「地理+α」や作業を通して学習する「トライ」で、興味・関心をもって理解を広げたり深めたりできるよう配慮されている。(p. 19)</p> <p>○第1章にはクイズやゲームを取り入れ、学習に入りやすい仕掛けがなされている。単元の最初には写真が多く使用されており、学習への興味・関心が高まるよう工夫されている。(p. 9)</p>	<p>○竹島の地図と写真が掲載され島根県への編入の経緯と韓国による不法占拠について、日本が平和的な解決をめざしていることが記載されている。また、「領土・主権展示館」や「竹島資料室」の写真も掲載されている。(p. 21)</p> <p>○松江市の雨温図、海士町の「島留学」について記載されている。(p. 188, 199)</p>	<p>○「持続可能な地域をめざして」では、防災や文化、自然環境、地域など身近なテーマを深く学習できるように工夫されている。(p. 154)</p> <p>○地域づくりについて、実生活とのつながりを深く考えることができるよう代表者の声を紹介し、インタビュー動画にアクセスできるように工夫されている。(p. 206)</p>	<p>○地理的な見方・考え方について、大きなイラストを活用し、わかりやすい言葉で解説している。(巻頭3-4)</p> <p>○「タブレットマーク」が表示してあるページでは、二次元コードで関連する動画などにアクセスして学習を深めることができるよう工夫されている。(巻頭8)</p>	<p>○内容ごとと働かせる地理的な見方・考え方を示した課題を設定し、単元のまとめでは様々な思考ツールで思考力・判断力・表現力などを身につけることができるよう工夫されている。(p. 60-61)</p> <p>○各章や節において、生徒自身が問いを立て、仮説を立てながら検証していくことができるように資料の選択や配置が工夫されている。(p. 207)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(地図) No. 1

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
A	<p>○A版176ページで、大きな紙面になっている。UDフォントや縁取り文字を使用し、不要な陰影や立体感が少なく淡い彩色を採用している。</p> <p>○「この地図の活用方法」では、一般図の見方や、地図帳を活用した学習方法について説明されており、地図を使った学習に向かいやすいよう工夫されている。(p.5-6)</p>	<p>○巻末では、人口や農林水産業、エネルギー等のテーマごとに世界の様子と日本の様子を対比できる構成となっており、それぞれの比較を通して、考察できるよう工夫されている。(p.137-148, 151-152)</p> <p>○「ジャンプ」コーナーを設け、1つの資料を他のページの資料と関連付けて考えることができるよう工夫されている。(p.13)</p>	<p>○「Bee's eye」では、地図を深く読み取るためのヒントとなる問いが設定され、生徒が取り組みやすいよう工夫されている。(p.11-12)</p> <p>○デジタル地球儀や世界の景観がVRで体感できる等のデジタルコンテンツが多彩で、生徒の興味・関心に応じて情報にアクセスできるよう工夫されている。(p.11)</p>	<p>○中国地方では、竹島の拡大図が掲載され、日本周辺の地図では、航空写真とともに日本固有の領土であることや韓国の不法占拠に関する記載がある。(p.75,171)</p> <p>○各ページでキャラクターの吹き出しで示されている問いに対して、二次元コードを通して解答例にアクセスでき、興味・関心が高められるよう工夫されている。(p.11-12)</p>	<p>○日本の自然災害について、見開き2ページで整理されている。また、自然災害の例と防災施設の例がわかりやすく並記してあり、防災について考えることができるよう工夫されている。(p.135-136)</p> <p>○大阪・京都・奈良の歴史と治水に関して見開きで取り上げており、地理と歴史のつながりを感じることができるよう工夫されている。(p.87-88)</p>	<p>○世界の各州における各種資料が見開き2ページに整理されており、必要な情報にアクセスしやすいよう工夫されている。(p.27,28)</p> <p>○巻末には、世界の経済・国際関係に関する主題図や資料が整理されており、公民的分野の学習につなげることができるよう工夫されている。(p.153-154)</p>	<p>○キャラクターの吹き出しによって学習課題を示し、デジタルコンテンツも活用しながらその課題を追究でき、生徒が主体的に課題に取り組めるよう工夫されている。</p> <p>○見開き2ページで様々な資料を掲載し、世界と日本の様子を対比できるページ構成にすることができるよう工夫されている。</p>
J	<p>○A版198ページで、大きな紙面になっている。UDフォントや縁取り文字を使用し、濃淡がはっきりした彩色を採用している。</p> <p>○「この地図帳の使い方(1)」では、小学校での既習事項や地図の使用方法などが具体的に示され、工夫されている。(p.5-6)</p>	<p>○各地域の主題図はほぼ同縮尺で示されている。また、日本の主題図ではどの地方でも取り上げるテーマがあり、比較や考察がしやすいよう工夫されている。(p.26)</p> <p>○「地図で発見!」のコーナーが設けてあり、具体的な問いにより地図や資料を読み取ることができるように工夫されている。(p.39)</p>	<p>○立体的かつイラストを配した鳥瞰図により、地域的な特色や人々の生活等を捉えやすいように工夫されている。(p.29-30)</p> <p>○「世界の生活・文化」の項目において、写真やイラストの種類が豊富で、生徒の興味・関心を高めるよう工夫されている。(p.19-22)</p>	<p>○竹島の拡大図や航空写真が掲載され、領土問題に関する記載もある。また朝鮮半島の大陸地図や大陸から見た日本地図など、位置や距離が掴みやすいよう工夫されている。(p.33-36, 81, 95)</p> <p>○二次元コードから多くの資料が閲覧でき、家庭学習に利用しやすいよう工夫されている。(p.4)</p>	<p>○巻頭で持続可能な社会という視点で複数のテーマを設け、地図や主題図や写真を掲載し、SDGsについて学習できるように工夫されている。(p.8-14)</p> <p>○世界のすべての地域の資料に「日本との結びつき」を取り上げ、それぞれの地域との関係について追究できるよう工夫されている。(p.40)</p>	<p>○「持続可能な社会を考えた統計」や「日本の市と人口」など、多くの統計資料を9ページにわたり掲載している。(p.155-183)</p> <p>○日本の地形、人口等のページには主題学習が設定され、生徒がテーマをもって学習できるよう工夫されている。(p.155-174)</p>	<p>○地図の見方や読み取り方を示すとともに、「地図で発見!」のように生徒が授業や家庭学習において、主体的に地図を活用できるように工夫されている。</p> <p>○各地域において、地図だけでなく、主題図やグラフ等の資料が豊富で、多くの資料から課題を追究しやすいよう工夫されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(歴史) No. 1

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
A	<p>○見開き2ページで導入資料や学習課題、本文等が記載され、内容や分量も適当である。</p> <p>○章末等に「もっと知りたい！」を配置し、発展的な学習を促す工夫がされている。琉球やアイヌ、感染症等、その内容も興味深いものが多い。(p. 86-87, 120-121, 197等)</p>	<p>○モンゴル帝国の学習の前に中世のユーラシア大陸の動きを位置づける等、世界史と関連させながらその後の蒙古襲来を学習できるよう工夫されている。(p. 76-77)</p> <p>○戦後分割占領された東ドイツと東西ベルリンが地図で表示され、西ベルリンが飛び地であったことを理解しやすくなっている。(p. 250)</p>	<p>○偶数ページ上の導入資料は絵画や写真等が大きく、学習への関心を高められるよう工夫されている。</p> <p>○「地域の歴史を調べよう」では福岡や会津等が掲載され、地域史への関心を高める工夫もされている。(p. 40-41, 138-139等)</p>	<p>○「歴史をとらえる見方・考え方」に6ページを費やしている。特に西暦、世紀、元号、時代区分の他、十干十二支についても記載され、歴史的事象の名称への理解を促す工夫がされている。(p. 10-15)</p> <p>○吉賀町にある大井谷棚田の写真が大きく掲載されていたり、津和野町の笹ヶ谷地区が全国の公害を示した地図の中に記載されている。森鷗外については、『舞姫』の一節とともに出身地として「島根県」と記載されている。(p. 2, 195, 257)</p>	<p>○中世の河原者や近世の雪駄づくりなど、差別された人たちの技術や産業について記載されている。また「もっと知りたい！」の「『解放令』から水平社へ」のページでは旧柳原銀行や島崎藤村の『破戒』を含め、現在の部落差別につながる歴史が詳細に記載されている。(p. 93, 123, 218-219)</p> <p>○地球温暖化や東日本大震災等の他、「もっと知りたい！」ではエネルギーや震災の継承について記載され、理科等で学んだこととも関連づけながら思考を深められる内容になっている。(p. 264-269)</p>	<p>○ロシアによるウクライナ侵攻や新型コロナウイルスの感染拡大など、近年の事象についても記載されている。(p. 261, 263)</p> <p>○二次元コードが配置されている。章末等に「もっと知りたい！」を配置し、発展的な学習を促す工夫がされ、その内容も興味深いものが多い。(p. 24等)</p>	<p>○見開き2ページで導入資料や学習課題、本文等が記載され、内容や分量も適当である。導入資料は絵画や写真等が大きく、学習への関心を高める工夫もされている。章末等に「もっと知りたい！」を配置し、発展的な学習を促す工夫がされ、その内容も興味深いものが多い。</p> <p>○旧柳原銀行や島崎藤村の『破戒』を含め、現在の部落差別につながる歴史が詳細に記載されている。また、吉賀町の大井谷棚田や津和野町の笹ヶ谷地区等、当該地域の記載もあり、地域史と関連づけることができる。</p>
G	<p>○資料と資料の間や本文と資料の間などに余白が多く取られており、読み取りやすい構図になるよう工夫されている。</p> <p>○章ごとのまとまりが意識されており、章のはじめで見通しをもち学習に入り、章末で振り返るといようにパターン化されていることで、時代ごとのまとまりを捉えやすくなるよう工夫されている。</p>	<p>○章のはじめに「学習の見通し」として、各節で何を学ぶのか用語が示されており、見通しがもちやすいよう工夫されている。(p. 20-21)</p> <p>○章末にHOP!STEP! JUMP!の3つの段階で生徒が学習のまとめをすることができるよう工夫されている。(p. 56-58)</p>	<p>○「歴史ゲームで遊ぼう」で、小学校の学習とのつながりが意識されており、楽しみながら学べるよう工夫されている。(p. 4-7)</p> <p>○章末に「身近な地域の歴史を調べよう」が設定されており、自分たちの住む地域の歴史とのつながりを意識できるよう工夫されている。(p. 90-91)</p>	<p>○荒神谷遺跡や出雲大社について写真が記載されている。また、石見銀山について2ページにわたってその重要性について、詳細に記載されている。(p. 35, 52-53, 106-107)</p> <p>○竹島について、韓国の不法占拠と領有の経緯について記載されている。(p. 266-267)</p>	<p>○「歴史学習の終わりに」で公民の授業や生活とのつながりを意識しやすいよう工夫されている。(p. 287-291)</p> <p>○「教科を横断した見方・考え方で歴史の学習を深めよう」で、教科を横断した多面的・多角的な視点の例について記載されており学びを深められるよう工夫されている。(p. 11)</p>	<p>○「歴史にアプローチ」で歴史的な見方・考え方を働かせた具体例が示されており、歴史で育てるべき資質・能力を高めやすいよう工夫されている。(p. 8-9)</p> <p>○巻末の「世界地図の歴史の変化についての資料」が掲載されており、興味・関心が高められるよう工夫されている。</p>	<p>○章ごとのまとまりが意識されており、「学習のまとめと表現」が充実している。章末に自分で歴史を大観できるような構成になっている。</p> <p>○「身近な地域の歴史を調べよう」や「歴史を探ろう」など学習内容を深めるページが取り入れられ、多面的・多角的な視点で歴史的な事象を捉えることができるよう工夫されている。(p. 52-53, 90-91)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(歴史) No. 2

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
J	<p>○見開き2ページに内容がまとめられており、イラストや図表が多く記載されている。また、章末の振り返りが充実しており、学びが深まるよう工夫されている。(p. 60-62)</p> <p>○「アクティブ歴史AL」やコラム「未来に向けて」では、学習内容を深めるために、様々な視点で歴史をとらえることができるよう工夫されている。(p. 34, 39)</p>	<p>○「章の問い」, 「節の問い」, 「学習課題」という形で徐々に抽象的な問いに答える形式になっており、見通しをもって学習に取り組むことができるように工夫されている。(p. 15-16)</p> <p>○見開き2ページの右側のページに課題を解決するために、確認するとよいこと、説明するとよいことが示されており、取り組みやすいよう工夫されている。</p>	<p>○主に時代の転換点において、「タイムトラベル」という想像図が掲載されており、時代のイメージをもちやすくなっている。また、時代と時代の比較がしやすくなっている。(p. 26-27)</p> <p>○小学校、地理や公民の学びと関連する資料にはマークが示されており、既習事項とのつながりを意識しやすいよう工夫されている。(巻頭5)</p>	<p>○荒神谷遺跡の銅剣について取り上げられている。また、「地域史」では石見銀山について取り上げられている。さらに、コラム「未来に向けて」で日本人戦犯の解放につくした、加納莞菴について記載されている。(p. 29, 113, 278)</p> <p>○竹島について、編入の経緯について記載されている。(p. 195, 287)</p>	<p>○コラム「未来に向けて」が随所に登場し、現代とのつながりを意識させるような工夫がなされている。また、巻末に歴史の視点から防災について考える一例が示されており、これまでの歴史が現在につながっていることが強調されている。(巻末2-巻末3)</p> <p>○「これからの社会を構想しよう」で未来の日本の在り方を考える課題が示されている。これにより、歴史と公民とのつながりが意識できる内容となっている。(p. 309)</p>	<p>○「考えを整理する方法～思考ツールを活用しよう～」で図表を効果的に使って学びを深めるツールの紹介がされており、分析したり整理したりすることを容易にしている。(巻頭9)</p> <p>○二次元コードを使用して関連サイトにアクセスしやすいようになっている。(p. 15, 26)</p>	<p>○段階ごとに問いが設定されており、見通しをもって学習することができるよう工夫されている。また、図表が多用されていたり、課題を解くヒントや手順が随所にちりばめられ、学びが深まりやすいよう工夫されている。さらに、章の振り返りに紙幅がとってあり、考えたことを定着させやすくなるよう工夫されている。(p. 15-16, 60-62)</p> <p>○「タイムトラベル」で時代を大観することができ、興味・関心を高めるとともに、歴史的な見方・考え方を働かせることができるよう工夫されている。(p. 26-27)</p>
M	<p>○見開き2ページでそれぞれの項目がまとめてある。文字の大きさを少し小さくすることで詳細な内容を記載している。</p> <p>○章末等に「歴史へのアプローチ」を配置し、「国家とは何か」や「日本の植民地」等、興味深い内容のテーマが多い。(p. 175, 200-201等)</p>	<p>○第一次世界大戦後のワシントン体制に加え、不戦条約が結ばれて戦争を違法化する取り組みが整えられたことなど、歴史的事象が詳細に記載されている。(p. 219)</p> <p>○「日本軍はイギリス領マレー半島に上陸し、ハワイの真珠湾を奇襲攻撃して、太平洋戦争が始まった」と開戦について時系列に沿って正しく記載している。(p. 245)</p>	<p>○「2世紀の世界」や「8世紀の世界」等、世界史と関連づけながら時代を俯瞰できるような工夫がされている。(p. 26-27, 48-49等)</p> <p>○「地域からのアプローチ」では福岡や平泉、金沢等が豊富な写真とともに掲載され、地域史への関心を高める工夫もされている。(p. 58-59, 68-69, 148-149等)</p>	<p>○「私たちと歴史」では年代や時代区分の表し方について記載している。特に時代区分では、それぞれの時代が考古学や政治、年号で区分されていることを示している。(p. 5-7)</p> <p>○藩閥政府の資料の中に神祇省「津和野」の文字が記載されている。また森鷗外の名前についても記載されている。(p. 173, 208)</p>	<p>○フランス革命ではオランブ=ド=グージュを取り上げ、この当時の市民が男性のみを想定していたこと等、ジェンダーとの関わりで学べるように工夫されている。(p. 159)</p> <p>○最後に「今日の世界」や「今の日本、これからの日本」を配置し、公的分野へ接続するための工夫がされている。(p. 278-281)</p>	<p>○ロシアによるクリミア半島併合やウクライナ侵攻、新型コロナウイルスの感染拡大など、近年の事象についても記載されている。(p. 278-279)</p> <p>○二次元コードが配置され、内容に関連した動画や絵画、ホームページ等にアクセスできるようになっている。(p. 19等)</p>	<p>○見開き2ページでそれぞれの項目がまとめてある。文字の大きさを少し小さくすることで詳細な内容を記載している。例えば第一次世界大戦後については、ワシントン体制に加え、不戦条約が結ばれて戦争を違法化する取り組みが整えられたことが記されている。</p> <p>○「2世紀の世界」等のように世界史と関連づけながら時代が俯瞰できたり、「地域からのアプローチ」で地域史への関心を高めたりする工夫がされている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

歴史 No. 3

記号	選定に必要な資料の観点					総括	
	1 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫		6. その他
O	<p>○見開き2ページにバランスよく資料が配置されている。資料や写真、図が多く取り入れられており、当時の様子がよくわかるように工夫されている。</p> <p>○「歴史+α」や「歴史を掘り下げる」でより深く学びたいという思いに応えられるようになっている。</p>	<p>○各ページに「見方・考え方」で比較・推移・つながりなどの用語が示されており、学習課題を考える上で注目する点分かりやすくなっている。</p> <p>○各編のはじめに、前時代との比較が行えるように工夫しており、時代のイメージをつかみやすくなっている。(p. 104-105)</p>	<p>○各編のはじめに、絵や図、写真などを見開き2ページにまとめ、興味・関心が高まりやすくなるよう工夫されている。(p. 18-19)</p> <p>○コラム「先人に学ぶ」で現在とのつながりが意識しやすいう工夫されている。(p. 129)</p>	<p>○コラム「歴史を掘り下げる」で、古代の様子を知る手がかりとして、神話が取り上げられ、佐陀神能について記載されている。(p. 51)</p> <p>○コラム「地域に学ぶ」で石見銀山について、コラム「歴史を掘り下げる」で竹島問題について、注目されている経緯を記載している。(p. 117, 286-287)</p>	<p>○コラム「先人に学ぶ」で現代文化につながる過去の出来事や人物を取り上げている。(p. 97)</p> <p>○「でかけよう！地域調べ」で城下町の調べ方についてまとめであり、自分の住む地域の調べ学習に生かすことができるようになっている。(p. 121)</p>	<p>○見開き2ページに記載された二次元コードでデジタルコンテンツにアクセスしやすいう工夫されている。</p> <p>○見開き2ページの左下側に年表が配置されており、時代の推移を意識しやすいう工夫されている。</p>	<p>○前時代とのつながりや現代とのつながりが意識されており、興味・関心を高めやすい内容になっている。(p. 97, 104-105)</p> <p>○各編のまとめのページでは時代を大観するために工夫がなされており、時代のイメージをつかみやすくなっている。また、3つのSTEPで自分事として歴史を捉えることができるよう工夫されている。(p. 153)</p>
R	<p>○見開き2ページで導入資料や学習課題、本文等が記載され、内容や分量も適当である。</p> <p>○それぞれの章のはじめに「鳥の目」で歴史の流れを大観したり、「虫の目」で学習する時代を象徴する資料が大きく掲載されたりしている。(p. 24-27等)</p>	<p>○いわゆる四大文明について見開き2ページ、特に中国文明がコンパクトにまとめられている。(p. 34-37)</p> <p>○太平洋戦争について「自存自衛」の戦争とした上で「大東亜戦争」と名付けたことが記載されている。(p. 234)</p>	<p>○「歴史ズームイン」では本文中の学習内容に関連した資料や情報が掲載されている。「列強の植民地とアジアの民族運動」ではトルコのムスタファ・ケマルやインドネシアのスカルノなどを取り上げている。(p. 222-223)</p> <p>○南北朝時代については北朝と南朝それぞれの年号を掲載しているため、年号からも朝廷の分裂を認識できる。(p. 83)</p>	<p>○冒頭で教科書の構成、年代や時代の表し方について掲載されている。(p. 4-11)</p> <p>○明治時代の文化の中で森鷗外が軍医を続けながら『舞姫』などを書いたことが写真とともに掲載されている。明治時代の医学者・科学者の資料の中には秦佐八郎が梅毒の特効薬を発見したことが記載されている。(p. 199)</p>	<p>○世界の宗教と関連させながら「歴史ズームイン」で「日本の宗教観」について取り上げている。(p. 42-44)</p> <p>○「これからの世界と日本」の後に「歴史ズームイン」の中で人口や震災、感染症といったテーマの歴史を取り上げている。(p. 270-277)</p>	<p>○ロシアによるクリミア半島併合やウクライナ侵攻、新型コロナウイルスの感染拡大など、近年の事象についても記載されている。ウクライナ侵攻に関連し、現在のウクライナでのホロドモールも取り上げられている。(p. 226, 267, 271, 277)</p> <p>○目次に合わせて二次元コードが配置され、内容に関連した動画やホームページ等にアクセスできるようになっている。(p. 3)</p>	<p>○見開き2ページで導入資料や学習課題、本文等が記載され、内容や分量も適当である。冒頭で教科書の構成、年代や時代の表し方について掲載されている。他、それぞれの章のはじめに「鳥の目」で歴史の流れを大観したり、「虫の目」で学習する時代を象徴する資料が大きく掲載されたりしている。</p> <p>○「歴史ズームイン」では「列強の植民地とアジアの民族運動」や「日本の宗教観」等、本文中の学習内容に関連した資料や情報が掲載されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(歴史) No. 4

記号	選定に必要な資料の観点					総 括	
	1 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫		6. その他
V	<p>○1ページ当たりの分量が少なく読みやすく、ひとまとまりごとの文字数は多く読みごたえがある。</p> <p>○各章末の年表で日本と世界を比べることができるようになっており工夫されている。(p. 265-267)</p>	<p>○授業の最初に課題が示され、終わりは考えようで締めくくられており、考えを深めやすくなっている。また、ヒントが掲載されており考えやすくなっている。</p> <p>○文献資料として、読み下し文と現代語訳が両方載っており、当時の様子を知る工夫がされている。(p. 38)</p>	<p>○序章にて小学校で学んだ人物についてまとめられている。既習事項を振り返ってから学習に入ることができ、親しみやすく工夫されている。(p. 10)</p> <p>○各章でコラムが非常に詳しく書いてあり、興味・関心を高めるよう工夫されている。(p. 43)</p>	<p>○コラム「『古事記』の国譲り神話」において、古代出雲について記載されている。(p. 38-39)</p> <p>○竹島の領有権確立と、韓国の不法占拠について記載されている。(p. 303, 423)</p>	<p>○二次元コードを使うことできぐに歴史漫画に親しめるように工夫されている。(p. 461)</p> <p>○「この教科書の課題」で自分事として歴史をとらえることができるよう工夫されている。(p. 4-5)</p>	<p>○注釈が多く示してあり、当時の事情をより詳しく知ることができる工夫がなされている。</p> <p>○「歴史小説・歴史漫画を読むときの注意」で、史実とフィクションの違いについて注意点が記載されている(p. 460)</p>	<p>○「天孫降臨」や「傍系から即位した光格天皇の気概」、「政権担当者・出来事対照表」など、天皇について詳しく記載されており、政権担当者の視点だけではなく、多面的な視点で歴史をとらえることができるように工夫されている。(p. 37, 241, 462-463)</p> <p>○章末にディスカッションやディベートなどを駆使した、まとめ学習が設定されており、学びを深めていくための工夫が盛り込まれている。(p. 404, 455)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(公民) No. 1

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
A	<p>○図表や写真等の資料が多く、それぞれの資料番号が本文を読んでいく中で提示されており、活用のタイミングがわかりやすくなっている。また、「みんなでチャレンジ」や「スキル・アップ」などにより深い学びに繋がるように工夫されている。(p. 9, 103)</p> <p>○SNSの利用や同性婚、キャッシュレス決済についての取り扱いがあり、生徒にとって身近な内容を取り扱うことができるような工夫が見られる。(p. 13, 11, 10, 139)</p>	<p>○各章のはじめに導入活動があり、生徒の興味関心を高めたり、学びの見通しをもったりできるよう工夫されており、1時間ごとの課題探究を繰り返すことで単元を通して主体的に学習に取り組む態度や思考・判断・表現力を育成する構成となっている。(p. 6-35)</p> <p>○各章のまとめでは、「たしかめよう」で知識の定着を、「ふり返ろう」ではさまざまな思考ツールが使用され、資料活用の技能の向上や思考・判断・表現を鍛えるための工夫が見られる。(p. 210-211)</p>	<p>○1時間の学習ごとに親しみやすい表現でサブタイトルが設定されており、生徒の興味を誘うよう工夫されている。(p. 20)</p> <p>○見開き1ページごとに2次元コードがあり、参考法令集や用語の確認ができたり、動画等で学習を深めることができるよう配慮されている。(p. 42)</p>	<p>○竹島問題について、特設ページを設け、韓国による不法占拠の動き、国際司法裁判所への提訴の動きを掲載している。また、2次元コードでは地理と歴史の教科書へのリンクもあり、3分野の教科書それぞれ異なった資料を簡単に確認することができる。(p. 186)</p> <p>○「もっと知りたい！」で空き家・廃校について取り上げられていることから、地域活性化のための具体的な手立てを学ぶことができるようになっている。(p. 128)</p>	<p>○見開き1ページごとに2次元バーコードがあり、道徳の教材や家庭科の学習ページなどといった他教科の教科書へのリンクができるよう工夫されている。(p. 20)</p> <p>○「18歳へのステップ」という内容が3種類組み込まれており、成人年齢の引き下げに伴って18歳から可能になった行動等を具体的に学ぶことができ実生活へと役立てることができるよう工夫されている。(p. 60-61, 90-91, 138-139)</p>	<p>○資料掲載部分に背景色を入れたり、カラーユニバーサルデザインやUDフォントを採用したりなど多様性に配慮されている。(p. 16-17)</p> <p>○見出しの色を章ごとに分けるなどしてインデックス機能を掲載したり、法令特有の難しい言葉は解説があり、その解説がついている語句も色を変えるなどしてわかりやすくしてあったり工夫が見られる。(p. 226)</p>	<p>○図表や写真など多くの資料を使って、多面的・多角的に学習ができるよう工夫されている。(p. 16-17)</p> <p>○ユニバーサルデザインやデジタルコンテンツを設けるなどして多様性に配慮され、主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。(p. 22-23)</p>
G	<p>○図表、写真などの資料が多く、内容の難しいものには解説もつけられている。また、本文や用語の解説が側注でなされ、理解を支援できるようになっている。(p. 62-63)</p> <p>○「公民にアプローチ」では情報収集や思考ツールを使った情報整理の方法が示され、「公民の技」では公民学習で身に付けたい技能や表現力が磨けるよう工夫されている。(p. 8-11, 89)</p>	<p>○各章で意識させたい「味方・考え方」を、それぞれの導入ページで紹介するとともに、その章での学習の見通しがもてるようになっている。(p. 41)</p> <p>○見開き2ページが、導入、資料、学習課題、本文、確認、表現の流れで構成されており、順序良く学習を進められるよう工夫されている。(p. 16-17)</p>	<p>○「学習のはじめに」では漫画やイラスト、親しみやすい資料の読み取りを行い、生徒の興味が高まるよう工夫されている。(p. 130)</p> <p>○各章に二次元コードによる独自の語句クイズなどが用意されており、各章のはじめとまとめに生徒が興味をもって取り組めるよう工夫されている。(p. 41)</p>	<p>○竹島問題について、竹島の写真と地図ともに、韓国政府の対応などの経緯が解説されている。(p. 199)</p> <p>○資料中に海士町の島留学や大田市の中村プレイスの取り組みなどが紹介されており、地域を通して社会を考えさせる内容になっている。(p. 122, 168)</p>	<p>○見開きの左下部分に、小学校や他分野、他教科と関連する項目を記載することで、各分野、他教科との連携や振り返りを行うことができるようになっている。(p. 22)</p> <p>○特設ページでは新しい視点に立ったコラムを紹介し、これからの時代に必要と考え方が身につくよう工夫されている。(p. 70)</p>	<p>○レイアウトや配色、書体を工夫し、ユニバーサルデザインの視点を大切にしている。(p. 88-89)</p> <p>○各章の「ウォーミングアップ! 公民」や章末の「学習のまとめと表現」では、自分の考えを記述するところが多くあり、表現力を高めようと配慮されている。(p. 15, 36-38)</p>	<p>○SDG s について、「公民の学習を始めるにあたって」や各章のまとめで大きく取り上げ、持続可能な社会の形成に向けて、主体的に考えを深めるよう工夫されている。(p. I)</p> <p>○導入では、公民で学ぶ主な内容や学習の見通しや学び方、ノートづくり等、生徒が主体的に学習に取り組めるよう丁寧に記載されている。(p. II, 6-7)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(公民) No. 2

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
J	<p>○図表、写真等の資料が大きく示され、対話や資料活用のポイントが示されている。また、本文の補足や解説を側注に示し、社会的現象を多面的にとらえられるよう工夫されている。(p. 51, 104)</p> <p>「対話」という学習活動が小単元のはじめに設けてあり、ペアやグループでの対話を通じて、本時の学習内容にスムーズにつながることができるよう工夫されている。(p. 4)</p>	<p>○章のはじめに章の問いを示し、「学習を振り返ろう」では「学習の前に」を見直し、その章で学んだことが確認できるとともに、対話などを通して深く考えられるようになっている。(p. 25)</p> <p>○考えを整理する方法(思考ツール)が紹介されており、それを様々な場面で活用し学びを深めるよう工夫されている。(巻頭 p. 9, 165)</p>	<p>○各章において大きなイラストが描かれ、学習内容と関連するさまざまな場面をとらえられる内容になっている。さらには振り返りで見返すことにより理解を深め、生徒が興味をもって学習できるよう工夫されている。(p. 116-117)</p> <p>○二次元コードにより、関係する他分野のページを見たり、個別の学習を支えるコンテンツにつながり、個別最適な学びを行えるよう工夫されている。(p. 2)</p>	<p>○竹島問題について、「国際司法裁判所にゆだねよう」と韓国に複数回提案」と本文に記載され、地図で松江、竹島、韓国の位置関係を示している。(p. 187)</p> <p>○「選挙制度とその課題」では島根、鳥取の参議院選挙の合区についてグラフ等で示しており、今後の選挙制度の在り方や課題について考えるようにしている。(p. 82)</p>	<p>○「アクティブ公民」では社会参加を疑似体験できるシミュレーション型の学習が用意されており、自分事として考え、学習内容を進化できるよう工夫されている。(p. 144-145)</p> <p>○「未来に向けて」では新しく、多面的な内容のコラムから未来に明るい希望を持つことができるよう工夫されている。(p. 137)</p>	<p>○UDフォントを使用し、カラーユニバーサルデザインにも配慮した見やすくわかりやすい色調である。(p. 141)</p> <p>○小学校社会や他分野との関連だけでなく、地図帳活用のマークを示し、地図帳を活用することでさらなる学びを深める工夫がある。(p. 13)</p>	<p>○豊富なデジタルコンテンツや地図帳の活用等、教科書本文以外の情報も活用し学びを深めるよう工夫されている。(裏表紙)</p> <p>○「課題探求学習」が第5部として独立しており、既習事項が生かされた学習内容が示されている。また、「高等学校への準備」として、「公共」とのつながりを意識できるよう工夫されている。(p. 223)</p>
0	<p>○図表、写真等の資料が多く、最新の内容を取り扱ったものも豊富にあり、現代社会と学習内容を結びつけやすいよう工夫されている。(p. 26)</p> <p>○二次元コードが定位置に掲載してあり、活用しやすいよう工夫されている。(p. 8, 10)</p>	<p>○各編章の導入ページが同じレイアウトになっており、授業で着目するポイントや授業の流れをつかみやすいよう工夫されている。(p. 6-7, 38-39)</p> <p>○巻末に「日本の現代史年表」があり、戦後の日本の経済成長と主な出来事が文化・社会と政治・経済に分けて掲載されている。(p. 256-257)</p>	<p>○各編章のはじめに身近な例を描いた漫画を用いて学習内容との気づきを促したり、イントロダクションムービーなどを活用して見通しを持った学習ができるよう工夫されている。(p. 6-7, 8)</p> <p>○図表の補足が吹き出しによってされることで、生徒が理解しやすいように工夫されている。(p. 43, 100, 108)</p>	<p>○竹島問題について特設ページが設けられており、歴史的背景や平和的解決に向けた取組が掲載されるとともに、世界の領土問題とその解決も掲載されていることから、竹島問題の平和的解決への糸口を考えやすくなっている。(p. 194-197)</p> <p>○ページ下にこれまで学習してきた地理や歴史の関連事項が記載されており、分野横断を図った多面的・多角的考察ができるよう工夫されている。(p. 13)</p>	<p>○最新のトピックスを扱う内容が豊富で、公共の福祉や新しい働き方といった現代社会の諸課題や抽象的な事象がわかりやすく示されている。(p. 71, 158, 205)</p> <p>○「明日に向かって」といった社会参画を促す特設ページが設けられており、地域社会への参画や消費者教育など社会の中での自立ができるよう工夫されている。(p. 122, 138)</p>	<p>○金融商品のリスクとリターンや社会保障との私たちの生活との関係性などがビジュアルで示してあり理解しやすくなっている。(p. 163, 180)</p> <p>○二次元コードから4択問題の確認テストを実施することができ、知識定着のための工夫がある。(p. 42)</p>	<p>○イラストを主とした親しみやすさと豊富な資料で、主体的な学習が促されるような工夫がされている。(p. 62-63)</p> <p>○1時間ごとに「学習課題」が設定され、その解決のために「見方・考え方」が記載されていることから、思考・判断を鍛えることができるよう工夫されている。(p. 8-9)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(公民) No. 3

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
Q	<p>○文字、図表、写真等の資料が大きくて見やすい。必要最低限の資料が掲載されており、学習の際に焦点化しやすい。(p. 148-149)</p> <p>○文字を使用した資料が多く、世界地図を用いた資料でも地図上に国名を大きく書くなどして、文字による情報処理力の育成できるよう配慮されている。(p. 194)</p>	<p>○1時間ごとの学習が基本とされており、「ここがポイント！」として本時のまとめを示していることから、学習内容がスリム化されている。(p. 3)</p> <p>○「もっと知りたい」が特集として組み込まれ、より深い学習を行うことができるように構成の工夫が見られる。(p. 68)</p>	<p>○「ミニ知識」が多く掲載され、興味・関心を高めるきっかけとなるよう工夫されている。(p. 48)</p> <p>○教科書に登場するキャラクターのつぶやきにより考えが深まったり、話し合うきっかけとなったりしている。(p. 35)</p>	<p>○「竹島問題」については特集が組まれており、李承晩ラインなどといった歴史的背景や、韓国政府の見解や日本政府の対応など双方の立場から問題を解決できるよう工夫されている。(p. 170-171)</p> <p>○一票の格差から合区を設けたことが補足説明として掲載され、民主主義について深く学習できるよう工夫されている。(p. 89)</p>	<p>○「もっと知りたい」では宗教などの特集が生まれ、地理や歴史などで学んだ事項をより深く説明している。(p. 20-21)</p> <p>○「アクティブに深めよう」では学習した内容を活用して現代社会が抱える課題について考える機会となっており、思考力を育むことができるよう工夫されている。(p. 40-41)</p>	<p>○本文周辺の余白が多かったり行間が広がったりすることから、必要箇所に注意を向けやすいよう配慮されている。(p. 26-27)</p> <p>○「皇室典範」「国旗国歌法」「捕虜条約」など幅広い分野の法令が記載されている。(p. 233-250)</p>	<p>○一つ一つの資料が大きく、文字も大きいため、学習内容が焦点化しやすいよう配慮されている。また、深く探究したい際には、「もっと知りたい」などの特集を使用することで実現できるよう工夫されている。(p. 66-69)</p> <p>○「ここがポイント！」を利用し、学習内容が明確になることで確かな知識・技能を定着できるよう工夫されている。(p. 61)</p>
R	<p>○図表、写真等の資料が多く、本文中の事柄に関連する資料番号や教科書のページが記載されている。課題をつかみ、学習し、課題についてまとめ、表現することで問題解決の学習を実現する構成になっている。(p. 12-13)</p> <p>○巻末の「学習資料」では、法令集や用語解説に紙面の多くを使い解説し、生徒の学習の手助けができるようになっている。(p. 218-252)</p>	<p>○各章を「課題をつかむ」「課題について調べる」「課題についてまとめる・表現する」という、問題解決が他の学習を意識した構成として、生徒の主体的・対話的な学びを促すよう工夫されている。(p. 4-5)</p> <p>○「入り口」で章の学習の動機づけをし、「これから」で章の学びを振り返り、学びを深める課題を設け、章を通した学習ができる。(p. 118-119, 168-169)</p>	<p>○それぞれの章の入り口でイラストや写真から学習意欲を高めようとしている。(p. 38-39)</p> <p>○「やってみよう」では話し合いやシミュレーションなどの参加型学習を取り上げている。(p. 89-89)</p>	<p>○竹島問題について、特設ページを設け、キャラクターが問いや疑問をつぶやき、生徒が考えられるよう工夫されている。(p. 190-193)</p> <p>○様々な特設ページにより、差別のない社会を築くにはどうすればよいかを考えられる内容になっている。(p. 62-63)</p>	<p>○地理・歴史で学習した内容について、小単元名の下にアイコンと内容を示し、公民の学習と地理、歴史の学習を結びつけることができるようになっている。(p. 46, 52)</p> <p>○中学生の企業や生徒に身近なサブスクリプション・サービスについて例を示し、経済社会と自分とのかかりについて考えられるようになっている。(p. 14, 133)</p>	<p>○色覚特性に配慮したカラーユニバーサルデザインを採用している。(p. 140)</p> <p>○特設ページでは、日本の伝統文化を分類して取り上げ、文化の系統を踏まえられるよう工夫されている。(p. 214-215)</p>	<p>○巻頭の「なぜ『公民』を学ぶのか」や各章の冒頭に「どうして〇〇を学ぶの？」のコラムがあり、教科書全体を通して、生徒の学習意欲を高めようと工夫されている。(p. 巻頭③, p. 1)</p> <p>○見開きの左上に、本時のテーマ、節の課題、本時の課題が一目でわかるように書かれており、単元を通した学びが意識されている。(p. 14)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(数学) No. 1

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
A	<p>○ゆとりをもって指導ができる配当時間となっている。(1年129/140時間、2年96/105時間、3年119/140時間)</p> <p>○「大切にしたい数学の学び方」や「この本の構成と使い方」「数学マイノート」では、教科書の使い方やノートの取り方等が丁寧に記載されている。(1年巻頭p. 4-10)</p>	<p>○章の最初に、学習のめあてや、解決までの過程が具体的に示されており、生徒が見通しをもって学習できるように工夫されている。(1年p. 12-13)</p> <p>○「深い学び」では、学習した内容と日常生活の中の課題と関連が図られるよう工夫されている。(1年p. 149)</p>	<p>○「深い学び」や章末問題では、学習内容と身の回りの事象と関連して、生徒の興味・関心が高まるように工夫されている。(1年p. 57, 61-62)</p> <p>○「数学のまど」では、数学と日常生活が関連付けられ、生徒の興味・関心が高まるように工夫されている。(1年p. 28)</p>	<p>○二次元コンテンツが豊富で、視覚的にとらえることができるように工夫されている。(1年p. 208, 2年p. 69)</p> <p>○「数学の目でふり返ろう」では、既習事項を確認できるよう工夫されている。(1年p. 250, 2年p. 200-201, 3年p. 228-229)</p>	<p>○「数学×伝統工芸士」では、数学を活用している仕事について紹介されていて、実生活とのつながりを感じられるよう工夫されている。(1年p. 186-187)</p> <p>○島根県の「まちづくり条例」や地域の建物が題材に使われていて、数学を活用できるよう工夫されている。(1年p. 189, 192)</p>	<p>○正多面体をつくることのできる紙教具がついているので、操作を通して立体の特徴を確かめられるよう工夫されている。(1年p. 195, p. 313-318)</p> <p>○生徒が学びをふり返ることができるコーナーが豊富に用意されている。(2年p. 70, 92, 230-231)</p>	<p>○色分けや挿絵・キャラクターなどが効果的に用いられていて、生徒が解決の見通しがもてるよう工夫されている。(3年p. 106)</p> <p>○多くのコンテンツが用意されているので、授業でも家庭学習でも活用できるよう工夫されている。(1年p. 63, 2年p. 69, 3年p. 205)</p>
B	<p>○「この教科書の使い方」で学習の流れを説明し、見通しをもって学習したり、問題発見や解決の過程を意識したりできるよう工夫されている。(1年p. 4-11)</p> <p>○ページ右端に「思い出そう」として下学年の学習内容の確認があり、生徒が自分でふりかえられるよう配慮されている。(2年p. 69)</p>	<p>○各節の中の学習内容の項目ごとに「めあて」が提示され、「活動」という流れで生徒が見通しをもって学習が進められるよう工夫されている。(1年p. 42-43)</p> <p>○1年1章「数の世界の広がり」で、素数因数分解について学んだあとに、その後学習につながるよう学習内容の配列が工夫されている。(1年p. 14-17)</p>	<p>○章末の「活用・研究」では、学習した内容を活用する場面を掲載し、生徒の興味・関心が高まるよう工夫されている。(2年p. 38)</p> <p>○WEBサイトで生徒が自分で操作して学習できるコンテンツや資料があり、興味・関心をもったり、理解が深まるよう工夫されている。(1年p. 49)</p>	<p>○数学的な見方・考え方の具体的な例を挙げ、学習を進められるよう工夫されている。(各学年p. 9)</p> <p>○「もっと数学の世界へ」では、「課題学習」「小学校算数のふりかえり」「補充問題」「総合問題」などが設けられ、生徒一人一人の学習状況に応じて取り組むことができるよう工夫されている。(1年p. 265-269, p. 280-297)</p>	<p>○「社会にリンク」では、仕事の中で数学を活用している人へのインタビューを通して、生徒が実生活と数学のつながりを感じるよう工夫されている。(2年p. 39)</p> <p>○「MATHFUL」では、数学と他教科のつながりや実生活と数学とのつながりを掲載し、理解を深められるよう工夫されている。(1年p. 270-279, 2年p. 206-213, 3年p. 242-253)</p>	<p>○紙教具が用意され、操作を通して、学習内容についての理解が深まるよう工夫されている。(1年付録, 3年付録)</p> <p>○「1年のまとめ」「2年のまとめ」があり、切り取って次の学年でも活用できるよう工夫されている。(1・2年付録p. 1-4)</p>	<p>○巻頭の「数学の世界へようこそ」に示されている問題発見・解決の流れを各章の中で生徒が意識できるように問題を設定している。(各学年p. 7)</p> <p>○生活の場面や他教科とのつながりのある課題が設定されていて、数学を様々な場面で活用しようとする態度が育まれるよう工夫されている。(2年p. 60, 92-93)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(数学) No. 2

記号	選定に必要な資料の観点					総括	
	1 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫		6. その他
E	<p>○ページ右端に「やってみよう」として、WEBサイトへのリンクがあり、個に応じた学習に対応できるよう工夫されている。(1年p. 23)</p> <p>○章末のまとめの問題では、「基本」「応用」「活用」「深めよう」と段階的に学習内容をふり返り・活用できるよう工夫されている。(3年p. 96-99)</p>	<p>○「どんなことがわかったかな」で要点をまとめ、となりに「次の課題へ！」が示してあり、次の内容へのつながりを生徒が意識して進められるよう工夫されている。(2年p. 42-43)</p> <p>○2年4章「図形の性質の調べ方」の図形の性質のまとめを掲載して、証明の根拠となることがらを確認できるよう工夫されている。(2年p. 138-139)</p>	<p>○1年3章「方程式」の単元の導入では、「活動」としてWEBサイトで天びんの操作を通して、生徒が等式や不等式のイメージがもてるよう工夫されている。(1年p. 97)</p> <p>○錐体の体積では紙教具が用意されていて、操作を通して生徒が柱体と錐体の体積の関係を実感できるよう工夫されている。(1年p. 233, 巻末2)</p>	<p>○「さらなる数学へ」では、数学的な見方・考え方を活用した場面をふり返り、学習を深めるために思考の流れを確認できるよう工夫されている。(1年p. 276-277)</p> <p>○章の初めのページには「ふりかえり」のページを設け、既習事項とのつながりを意識して単元の学習が始められるよう工夫されている。(3年p. 100)</p>	<p>○「章のまとめの問題」や「深めよう」では、環境に関する問題を取り上げ、数学と実生活とのつながりを意識できるよう工夫されている。(1年p. 126-127, 3年p. 136)</p> <p>○数学と他教科との関連を紹介し、生徒が数学の有用性を感じられるよう工夫されている。(1年p. 118, 2年p. 61)</p>	<p>○ページ右端にある「パトロール隊」ではWEBサイトへのリンクがあり、間違えやすい問題について、生徒が必要に応じて解説を確認できるよう配慮されている。(1年p. 48)</p> <p>○巻末には「図形の性質のまとめ」があり、必要に応じて確認ができるよう配慮されている。(2年巻末, 1, 3年巻末1)</p>	<p>○章の最後に「できるようになったこと」としてチェックリストがあったり、「さらに学んでみたいこと」を記述したりできるようになっており、生徒が学習内容をふり返ることができるよう工夫されている。(2年p. 101)</p> <p>○「Question」の横に「見方・考え方」が示してあり、生徒が意識できるよう工夫されている。(3年p. 63)</p>
G	<p>○「例題」と「問」の間に類似した問題「たしかめ」を設け、スモールステップで取り組めるよう配慮されている。(1年p. 116)</p> <p>○巻末では、補充的、発展的な学習が行えるよう配慮されている。(2年p. 234-244, 245-258)</p>	<p>○「学びのプロセス」では、問題発見・解決の過程が意識づけられるように側に注が表示されている。(1年p. 125-126)</p> <p>○「章の問題」では、生徒が記号で自己評価できるよう工夫されている。(1年p. 207)</p>	<p>○章の冒頭に数学に関わる話題が取り上げられていて、数学を学ぶことの必要性を感じられるよう工夫されている。(1年p. 13)</p> <p>○「まなびのリンク」のデジタルコンテンツが豊富で、アニメーションや映像を見ることで理解が高まるよう工夫されている。(2年p. 83, 1年p. 186)</p>	<p>○よく見られる誤りが多数取り上げられていて、誤答例を用いて理解が図られるよう工夫されている。(1年p. 57)</p> <p>○「学習のまとめ」で簡潔に学習した内容をふり返ることができ、その後問題演習につながるよう配慮されている。(1年p. 206-209)</p>	<p>○「数学のしごと人」では、社会で活躍している方のインタビューが掲載されていて、実生活で数学が役立つことを実感できるよう工夫されている。(1年p. 278-279)</p> <p>○「数学の広場」では、SDGs や社会福祉についての内容を取り上げるなど、他教科との関連を意識した問題を設定するよう工夫されている。(3年p. 252-256, 1年p. 66)</p>	<p>○巻頭には大切にしたい数学的な見方・考え方がかかれていたり、1章の終わりではノートの活用方法がかかれていたりして、授業や家庭学習につながるよう工夫されている。(1年p. 6-11, p. 68-69)</p> <p>○「もどって確認」など生徒が学びをふり返ることができるコーナーが用意されている。(2年p. 70)</p>	<p>○「学びのマップ」があり、小学校の内容を復習することができたり、既習事項ふり返ったりすることができるよう配慮されている。(3年p. 264-275)</p> <p>○どの章でも、「問い」を中心とする学びのサイクルが展開されるよう工夫されている。(1年p. 125-126)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(数学) No. 3

記号	選定に必要な資料の観点					総括	
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫		6. その他
L	<p>○「学びをふりかえろう」では、生徒が必要に応じて、小学校の学習内容の復習ができるよう配慮されている。(1年p. 248-253)</p> <p>○「学びをたしかめよう」では、問題ごとにチェック欄が設けられていたり、右端に学習内容のページ番号が記載されていたりするなど生徒が学習内容を定着しやすくするよう工夫されている。(3年p. 118-119)</p>	<p>○1年3章2節「方程式の利用」では、「考え方」として絵・図・ことばの式・表を用いて問題の場面が整理されていて、生徒が等しい数量関係を確認しやすいよう工夫されている。(1年p. 102-107)</p> <p>○「学びをたしかめよう」では、最後に学習した内容をふりかえることで、生徒が単元で学習した内容について有用性を考えることができるよう工夫されている。(3年p. 65)</p>	<p>○身近な場面から問題を取り上げ、学習を進めることで、生徒の興味・関心が高まるよう工夫されている。(1年p. 88)</p> <p>○「学びをいかそう」では、高校数学とのつながりのある題材を取り上げ、生徒が興味・関心をもてるよう工夫されている。(3年p. 244-245, 257-261)</p>	<p>○1年2章2節の「関係を表す式」では、例題で複数の関係式を紹介することで生徒の数学的な見方・考え方を育まれるよう工夫されている。(1年p. 78)</p> <p>○証明の学習では、図形の性質が証明に活用できることを紹介し、図形の性質への理解が深まるよう工夫されている。(2年p. 132-136)</p>	<p>○章や節の導入では、身のまわりの題材を取り上げることで、生徒が実生活と数学の関連を意識し、数学のよさを感じられるよう工夫されている。(1年p. 169)</p> <p>○「学びをいかそう」では、数学と実生活、他教科と関連する題材を扱い、生徒が数学の有用性や楽しさを感じることができるよう工夫されている。(2年p. 212-229)</p>	<p>○「学びを身につけよう」では、問題の解説動画をWEBサイトで確認でき、理解を深めるよう工夫されている。(2年p. 128-129)</p> <p>○1年6章「空間図形」では、立体の見取り図と展開図をWEBサイトのリンクから動画で確認することができ、辺や頂点の位置関係を理解しやすいよう工夫されている。(1年p. 186-191)</p>	<p>○巻頭の「いろいろな場面で役に立つたいせつな考え方を身につけよう」の内容に沿って、下線部が引かれ、右端に対応する「たいせつな考え方」が示しており、生徒が数学的な見方・考え方を意識しながら学習に取り組めるよう工夫されている。(2年p. 6-7, 115)</p> <p>○生徒が問題発見・解決から学習を広げるまでの過程の中で「話しあおう」「説明しよう」が設けてあり、数学的な活動の中で協働的な学習に取り組みやすくなるよう工夫されている。(1年p. 82-83)</p>
N	<p>○全国学力調査で課題があった問題には、3ページを使用して丁寧に説明がされており、理解が深まるよう工夫されている。(1年p. 122-124)</p> <p>○「問」「練習問題」「確認問題」「章の問題」「チャレンジ編」と基本的な計算を習得できるよう工夫されている。(1年p. 58-60)</p>	<p>○章の学習に入る前に、関連する既習事項をふり返るページがあり、学習への準備ができるように構成が工夫されている。(2年p. 11)</p> <p>○ガイダンスや「学びの自己評価」のページがあり、学び方に対する意識が高まるよう配慮されている。(1年p. 8-9, 3年p. 104-105, 全学年巻末)</p>	<p>○身近な話題や課題を取り上げ、生徒の興味・関心が高まるよう工夫されている。(1年p. 12-13)</p> <p>○具体的な活動から学習が進んでいくよう工夫されている。(1年p. 38)</p>	<p>○例を細かく設けたり、二次元コンテンツを利用したりすることで生徒の理解が深まるよう工夫されている。(2年p. 102)</p> <p>○キャラクターが課題に対して試行錯誤することで、生徒のより深い学びにつながるよう工夫されている。(2年p. 15)</p>	<p>○「数学旅行」では、数学を生かして仕事をしている人のインタビュー記事があり、数学と社会とのつながりが見えるよう工夫されている。(2年p. 212-213)</p> <p>○SDGsに関する題材を通して、数学を学ぶ理由を感じられるよう配慮されている。(2年冒頭, p. 108)</p>	<p>○グラフや作図など教科書に書き込む可能性があるものは、教科書の外側にくるよう配慮されている。(1年p. 136, 180)</p> <p>○紙教具がついているので、操作を通して立体の特徴を確かめられるよう工夫されている。(1年巻末)</p>	<p>○生徒キャラクターが多く登場し、対話を通して学習内容の理解が深まるよう工夫されている。(3年p. 25)</p> <p>○全国学力調査での「説明すること」に対応するため問題をとり上げ、説明する力がつくよう工夫されている。(1年p. 234, 2年p. 167)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(数学) No. 4

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
0	<p>○「基本の問題」では、右端に対応する「例」のページと番号が書かれていて、生徒が自分でふりかえりやすいよう配慮されている。(1年p. 33)</p> <p>○「補充問題」「総合問題」「活用の問題」「ステップアップ」では、難易度の異なる問題が設けられ、一人一人の学習に応じて取り組めるよう配慮されている。(3年p. 234-261)</p>	<p>○章の学習に入る前に「次の章を学ぶ前に」というページが設けてあり、既習事項の復習を行うことで、これからの学習に向けた準備ができるよう工夫されている。(2年p. 61)</p> <p>○2年4章「図形の性質と合同」では、証明の根拠となることがらを見開きでまとめてあり、確認しやすいよう工夫されている。(2年p. 124-125)</p>	<p>○「数学のたんけん」では、学習した内容について、理解を深める話題を扱い、生徒の理解を深め、興味・関心が広がるよう工夫されている。(1年p. 56)</p> <p>○1年1章「方程式」の導入では、図に当てはまる数字を考える活動を通して、楽しみながら章の学習が始められるよう工夫されている。(1年p. 90-92)</p>	<p>○「学びに向かう力を育てよう」では、身のまわりの場面から問題を作成する課題を通して、問題のつくり方や条件を考えることで生徒が理解を深められるよう工夫されている。(2年p. 57)</p> <p>○ページ右端に「誤答に注意！」として、間違えやすい部分を確認できるよう配慮されている。(3年p. 15)</p>	<p>○「数学を仕事に生かす」では、インタビューを通して、実生活の中で数学を活用する場面や他教科とのつながりを感じることができるよう工夫されている。(1年p. 250-251)</p> <p>○「数学研究室」では、他教科、歴史等、生活と関連した内容を掲載し、生徒が数学の有用性を感じることができるよう工夫されている。(2年p. 206-213)</p>	<p>○「プログラミングと数学」では、Scratchによるプログラミングが紹介されていて、体験を通してアルゴリズムについて学ぶことができるよう工夫されている。(2年p. 214-215)</p> <p>○紙教具が用意され、操作を通して、学習内容についての理解が深まるよう工夫されている。(1年巻末折りこみ、3年巻末)</p>	<p>○「学び合おう」では、巻頭の「数学の学習を始めよう！」の流れに沿って、生徒が問題発見・解決から学習を広げるまでの過程を学習を進めながら体験できるように構成されている。また、巻末の対話シートを活用することで協働的な学習に取り組みやすくなるよう工夫されている。(2年p. 4-5, 32-33, 247)</p> <p>○ページ右端に「大切な見方・考え方」を示してあり、数学的な見方・考え方を意識しながら学習に取り組めるよう工夫されている。(2年p. 91)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(理科) No. 1

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
A	<p>○探求の過程の導入において、身近な題材を取り上げて、漫画で扱うなど 普段の生活と結びつけた導入の工夫がされている。(3年p. 12-13)</p> <p>○学習内容に応じて、写真やイラスト漫画などを豊富に扱っており、学びを広げたり、深めたりするための二次元コンテンツなども豊富に用意されている。(3年p. 100-101)</p>	<p>○探求のステップを言語化し、アイコンで明示し、探究の過程の流れもページの左端に明示され、探求の全体像を把握しやすい工夫がされている。(1年p. 76)</p> <p>○実験のページでは、目的、方法、結果、考察の流れがよく分かるレイアウトになっているため、実験の内容を確認しやすい。また、見開きのページが授業の1時間構成になるような工夫がされている。(2年p. 16-17)</p>	<p>○単元の初めでは、写真やイラストがダイナミックに掲載されていることに加え、関連する動画の二次元コードも掲載されており、生徒の思考や学習意欲を喚起するような工夫がされている。(3年p. 126-127)</p> <p>○周期表が、それぞれの元素について、身近に使われている場面のイラストが掲載されている。(2年p. 10-11)</p>	<p>○「私たちのSDGs」という読み物コンテンツが設けられており、学習内容を通してSDGsとの結びつきを意識できるような工夫がされている。(2年p. 199)</p> <p>○ジオパークへ行こうや、校外施設を活用しようなどの読み物コンテンツが設けられており、日本各地の地域での学びに活用できるようになっている。(1年p. 248-249)</p>	<p>○「技術・家庭で学ぶこと」など 他教科等の学習内容と関連ある内容について明示されている。また、その該当箇所他教科教科書紙面PDFの二次元コンテンツも載っている。(2年p. 260)</p> <p>○社会やキャリア教育につながるコラムが掲載されており、科学が様々な職業で役立っていることが伝わる。(1年p. 26)</p>	<p>○本文等の主要部分にはユニバーサルデザイン書体を使用しており、重要単語の太文字なども見やすくなっている。(1年p. 146-147)</p> <p>○学習内容の整理では、ルビふりをしてあり学びやすい。(3年p. 66-67)</p>	<p>○身近な題材や写真、イラスト、二次元コンテンツを活用し、探求のステップや実験の流れを明確に示している。</p> <p>○SDGsや地域学習への結びつきも意識されており、ユニバーサルデザイン書体で見やすくなっている。</p>
B	<p>○単元や章の導入には、魅力的・印象的な写真が使用されており、生徒の興味・関心をひきつけ、学ぶ意欲が高まる工夫がされている。(3年p. 224 - 225)</p> <p>○単元末や巻末には、学習のふりかえりや活用、学びを深める資料が充実している。(1年p. 66 - 69)</p>	<p>○小学校とのつながり、既習事項とのつながりを意識した構成になっている。(2年p. 216-218)</p> <p>○観察・実験を実施しやすい時期を考え構成している。(2年p. 211)</p>	<p>○実験・観察のページでは、目的が簡潔にまとめられている。また、目的だけでなく、「着目点」が記載されているため、見通しを持って観察・実験や考察ができる。(2年p. 14)</p> <p>○観察・実験の結果の例は、教科書のページをめくってから確認できるよう工夫されている。(3年p. 91)</p>	<p>○災害への理解を深め、防災や減災について自分ごととしてとらえ、実際に役立つ備えや工夫を学べる資料が添付されている。(3年p. 300)</p> <p>○様々な地域の写真や資料を掲載している。(1年p. 236 - 237)</p>	<p>○学習したことを日常生活や文化・伝統・歴史・科学技術・環境保全などにつなげて考え、幅広い視点をもてる資料が添付されている。(2年p. 287)</p> <p>○学習したことに関係する職業や仕事に従事する人へのインタビューが掲載されており、キャリア教育につながっている。(1年p. 63)</p>	<p>○すべての生徒に見やすく・使いやすい工夫がある。(改行の仕方、ユニバーサルデザインフォントの使用)</p> <p>○全学年に「行ってみよう！科学館・博物館」があり、校外実施等と連携がとれるよう工夫がされている。(3年p. 336-337)</p>	<p>○理科に親しみをもち、基礎的・基本的な学力を身に付けるための工夫を取り入れている。また、学びが様々な場面につながって、より学びを深められる工夫を取り入れた教科書になっている。</p> <p>○各単元末に「探究活動」があり、学習をふりかえることができるとともに、学びを活用し、生徒が探求を進められるような工夫がある。(1年p. 64-65)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(理科) No.2

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の 実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関 連についての工夫	6. その他	
E	<p>○それぞれの章に入る最初のページに①章全体を通しての課題、②既習事項一覧表、③達成目標が一覧にしている。それによって生徒がこの章で何を学ぶのか見通しを持ちやすくなっている。(1年p.101)</p> <p>○章の終わりには、学んだことが1ページにまとめられているため、理解しやすい。(1年p.101)</p>	<p>○身のまわりにある題材を選択しており、実験を行いやすい。(2年p.68)</p> <p>○実験の手順が見開き2ページに納まっているため、実験の内容が一目で分かる。(2年p.78-79)</p>	<p>○実験の前に「生徒が多様な仮説を持てるような現象」を写真で紹介しているため、生徒が探求して調べたいと思えるような単元構成になっている。(3年p.11)</p> <p>○結果・考察の例が実験のページの次のページにあることで、ネタバレを防ぐことができる。また、そのページには具体的な結果や考察の例が書いてあるので、自分で考えたものと比較ができ、答え合わせをしやすい。(3年p.104-106)</p>	<p>○自然・科学技術と人間では、SDGsに関する内容を含んでおり、道徳の内容項目C(19)生命の尊さや自然愛護(20)に関する内容を取り上げている。(3年p.213-236)</p> <p>○自然災害についての内容があり、地域の課題について考えることができる。(3年p.231)</p>	<p>○章の初めに、この章に関わりのあるSDGsの項目のマークがついているので、生徒がSDGsについての視点を持ちながら授業に取り組むことができる。(1年p.9)</p> <p>○職業との関連を想起させる資料が掲載されており、キャリア教育と関係している(1年p.257-259)</p>	<p>○教科書の上部にある二次元コードを読み取れば「ミライ教科書」というウェブページが出てくる。教科書の内容をウェブページでみることができる。(3年p.11)</p> <p>○「ミライ教科書」はフリガナ付きや分かち書き、翻訳機能がついており、生徒の多様な読み方に対応している。(3年p.11)</p>	<p>○実験の前に「生徒が多様な仮説を持てるような現象」を写真で紹介するなど、生徒が探求したいと思えるような単元構成になっている教科書である。(3年p.11)</p> <p>○「ミライ教科書」にてフリガナ付きや分かち書き、翻訳機能を利用でき、生徒の多様な読み方に対応しているなどユニバーサルデザインを意識した教科書である。</p>
G	<p>○図やイラストが必要に応じて大きくシンプルに掲載されており、必要な情報が見やすいような工夫がされている。(2年p.70)</p> <p>○教科書に掲載されている二次元コードからデジタルコンテンツ「まなびリンク」にアクセスできるようになっており、動画やグラフ、3Dモデルなどの資料が掲載されている。(3年p.132)</p>	<p>○全体として、探求の進め方に基づいた構成となっており、探求の進め方が記載されている折り込みも設けられており、学習の見通しを持てるような配慮がされている。(1年p.16-17)</p> <p>○5段階のステップで要点の確認から活用問題、学年末総合問題まで知識・技能を定着しやすいような段階的な工夫がされている。(2年p.278-287)</p>	<p>○学習内容の要点が表やイラストを使って簡潔にまとめられている。(1年p.40)</p> <p>○読み物資料「ハローサイエンス」では、学習する原理や規則性などが日常生活や社会で活用されていることにふれ、生活に結びついていることに気づきやすいような配慮がされている。(2年p.241)</p>	<p>○生物の観察など、直接自然に触れる活動を通して、自然を愛する心情を育み、生命を尊重する態度が養われるような配慮がされている。(1年p.13)</p> <p>○自分たちが住んでいる地域で起こりうる災害と、その対策について調べることを促し、学習した内容を自分のこととして捉えられるように工夫されている。(3年p.274)</p>	<p>○「ブリッジ国語」等のマークをつけて紹介されている。数学科については、各学年の巻末資料「理科で使う算数数学」で扱うなど教科間の関連を図りやすいような工夫がされている。(2年p.77, 298-299)</p>	<p>○学年に応じて文字の大きさが工夫されている。また、重要用語は太文字・朱色で表現されており、生徒に馴染みやすい配慮がされている。(1年p.147, 3年p.79)</p> <p>○カラーユニバーサルデザインに配慮されており、どの色覚特性でも判別できるような工夫がされている。(3年p.28-29)</p>	<p>○シンプルな図やイラストを活用し、探求の進め方や学習の要点を明確に示している。</p> <p>○デジタルコンテンツへのアクセスや生活への結びつき、ユニバーサルデザインの配慮など、学習をサポートする工夫がされている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(理科) No. 3

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の 実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関 連についての工夫	6. その他	
L	<p>○単元最初のページに単元全体に関する問いがある。そして単元終了後にもう一度同じ問いをするページがあるので、学習前と後の自分の考えの変容を知ることができる。(3年p. 3, 39)</p> <p>○二次元コードを読み取れば発表用スライドのデータを入手できるので、ICTを活用した授業を展開しやすい。(2年p. 217)</p>	<p>○学びを活用するための応用的な問いが随所に出てくるため、生徒の実態によって学びを深めやすい。(1年p. 39)</p> <p>○教科書に出てくる画像の近くには二次元コードがあり、その画像を検索できる構成になっている。(1年p. 39)</p>	<p>○単元最初のページに単元全体に関する問いがあるが、「小学生から聞かれたらどう答える？」や「あなたがボランティアガイドならどのように紹介する？」といったように、いろいろな立場を設定していることで、自分が物語の主人公になったような気持ちで単元の内容に入って行くことができる。(3年p. 3, 1年p. 63)</p> <p>○学びを活用するための応用的な問いが随所に出てくるため、生徒の実態によって学びを深めやすく、生徒の興味に沿った学びをしやすい。(1年p. 39)</p>	<p>○日本各地のSDGs目標達成への取り組みを掲載している。(2年p. 12-13)</p> <p>○日本や世界中で問題になっていることを解決するために使われている科学技術を紹介している(3年p. 274 - 275)</p>	<p>○既習事項に関係する職業の方へインタビューをしているコラム「お仕事ラボ」がある。ライフキャリア教育に係る内容である。(3年p. 91)</p> <p>○食品の熱量に関する内容の時に、家庭科との関連についてふれている。(2年p. 239)</p>	<p>○教科書の実験に対応した、紙媒体のシートがついている。そのシートの手順で書いていくと「課題→仮説→計画→結果→考察→仮説の検討」ができる流れになっており、探求的な学びができるようになっている。(ワークシート)</p> <p>○理科でよく使う算数、数学のページがあり、内容や数値、単位について確認ができる。</p>	<p>○探求的な学びを意識した教科書になっている。特に教科書についているワークシートに記入していくと探求的な学びをすることができる。(ワークシート)</p> <p>○二次元コードを読み取れば、章の導入に関する「不思議な現象や興味深い現象」を動画で見ることができたり、発表用のスライドをダウンロードできたりとデジタルコンテンツが充実している教科書である。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(音楽・一般) No. 1

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
G	<p>○「比べてみよう」という印をつけ、同じ題材に複数の教材を示し、比較して学習を深めることができるよう工夫されている。(1年p. 14-15, 2・3年上p. 18-21, 下p. 12-16)</p> <p>○「Active!」では、教科書と「まなびリンク」の両方でワークシートが示されており、考えたこと、調べたことを友だちと交流したりグループ学習に生かしたりすることができ、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す活動ができるよう工夫されている。(1年p. 16, 2・3年上p. 23, 下p. 19)</p>	<p>○領域・分野ごとに題材や教材が示された「学習マップ」や共通事項を軸にした「学習の進め方」が提示され、学習の見通しがもて、学びを深めることができるよう配慮されている。(全学年p. 8-9)</p> <p>○「日本とアジアの声によるさまざまな表現」では、わが国とアジア地域のさまざまな声で表現する音楽の鑑賞を通し、音楽文化と豊かに関わりながら学習を深めることができるよう工夫されている。(1年p. 58-60)</p>	<p>○教科書巻頭の「With My Heart」や「作曲家の思いにふれる」では、それぞれの音楽家のエピソードやメッセージが紹介され、生徒の興味・関心を高め、音楽的な見方・考え方を働かせた学習の入り口へ導く工夫がされている。(全学年p. 2-4)</p> <p>○「日本の歌みんなの歌」では、見開き一面に大きな鮮やかな風景の写真が掲載され、生徒が歌詞の情景をイメージしながら表現できるよう工夫されている。(1年p. 18-19, 2・3年上p. 16-17, 下p. 10-11)</p>	<p>○「歌のアルバム」では、気軽に楽しく歌い合わせられる二部合唱や歌いごたえのある混声三部合唱、少人数・無伴奏で歌える教材等、多彩な教材で学習を進めることができるよう工夫されている。(1年p. 66, 2・3年上p. 77, 80-81)</p> <p>○全校合唱では「故郷」が学年に応じた編制で掲載されており、歌詞の内容を味わいながらいろいろな響きを感じ取って歌ったり全校で取り組んでさらに豊かなハーモニーで表現できたりするよう工夫されている。(全学年p. 84-85)</p>	<p>○英語の歌詞で歌唱できる教材を扱ったり、歴史的事象との関連を図ったりすることで、他教科の学習を併行できるよう配慮されている。(1年p. 14-15, 2・3年下p. 40, 45, 49)</p> <p>○「音楽のチカラで人と社会を未来へつなぐ」では、アウトリーチや音楽を通した教育活動が示され、音楽と関わる活動や経験が生活を豊かなものにするにつなげていくことへの理解が深まるよう工夫されている。(2・3年下p. 66-67)</p>	<p>○「音のスケッチ」では、創作教材の活動の手順がわかりやすく示され、主体的・協働的に取り組めるよう工夫されている。(1年p. 38-39, 2・3年上p. 34-35, 下p. 32-33)</p> <p>○「指揮をしてみよう」では、教科書と「まなびリンク」の解説動画の相乗効果で、指揮の仕方がよりわかりやすく、より楽しく、すぐ取り組めるようになっており、技能も確実に習得できるよう配慮されている。(1年p. 25, 2・3年下p. 28-29)</p>	<p>○デジタルコンテンツ「まなびリンク」で示される資料やワンポイント・アドバイス、補充活動が充実しており、音楽とじっくり向き合うことのできる工夫や、情景などイメージを膨らませて学習することができるよう工夫されている。</p> <p>○巻末に折込形式の大きな紙面で楽器が紹介されており、「まなびリンク」と合わせて学習することにより、生徒の興味・関心や理解を深めることができるよう工夫されている。(2・3年上p. 91-93)</p>
H	<p>○1つの学習内容が見開き2ページになっており、楽譜を見ながら構成を理解したり、表現を考えたりすることができるよう工夫されている。(1年p. 18-19, 26-27)</p> <p>○合唱の編成や各パートの音域について、学年に応じて段階を踏んで学習できるように考慮されている。特に1年では変声期に対応できるよう編曲されたり、コラムを設けられたりするなど考慮されている。(各学年歌唱教材のページ, 1年p. 15)</p>	<p>○明確な学習の観点のもと、幅広く変化に富んだ学習活動を行えるような多様な教材が用意されており、意欲的に取り組めるよう適切に配慮されている。</p> <p>○1年間の学習の見通しをもつことができるページや、1年間の学習を振り返ることができるページを設けることで、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。(1年p. 8-9, 91-93, 2・3年上p. 8-9, 92-94, 下p. 8-9, 89, 96)</p>	<p>○意欲をもって主体的に学習を進められるよう、各教材において、目標とする学習内容やその方法、考えたいポイント、学習に必要な情報が明確に示されており、適切に工夫されている。</p> <p>○デジタルコンテンツで、パート別音源や伴奏、ワークシート、曲の背景などの様々な情報が示され、生徒が主体的に学習したり、理解を深めたりすることができるよう工夫されている。</p>	<p>○幅広い分野から教材を取り上げ、音楽のみならず文化的な側面からも総合的に捉えられるよう工夫されている。(1年p. 50-63, 2・3年上p. 54-69, 下p. 42-55)</p> <p>○我が国や郷土の伝統音楽を学習する際に、歌ったり手を打ったりする体験活動が示されていることに加え、地元出身の帯名久仁子さんが掲載されていることにより親しみをもって学習ができるよう工夫されている。(1年p. 55, 57, 60-61, 2・3年上p. 58-59, 66, 下p. 48-50)</p>	<p>○音や音楽と、生活や社会、文化との関わりについて、段階的に視野を広げて考えられるよう工夫されている。(1年p. 68, 2・3年上p. 91, 下p. 66)</p> <p>○「この頃、日本では…!?!」「耳でたどる音楽史」など、他教科との関連を図ることで生徒の興味・関心・意欲を高めて学習を一層深めることができるよう配慮されている。(1年p. 44, 48, 63, 2・3年上p. 37, 41, 50, 67)</p>	<p>○「My Voice!」のページでは、基礎的な学習内容を繰り返し確認できるよう工夫されている。また、生徒が発声の仕組みを理解しやすいよう、イラストが効果的に使われている。(1年p. 14, 2・3年上p. 17, 23, 下p. 19)</p> <p>○音楽を形づくっている要素について、イラストや楽譜を用いて具体的に示され、要素についてイメージするための工夫がされている。(1年p. 92-93)</p>	<p>○生徒の興味・関心に応じて活用できる資料が、紙面及びデジタルコンテンツに豊富に用意されていたり、協働して学習を進める場面も多く設定されるなど工夫されている。</p> <p>○音楽活動を通して、無理なく音楽を形づくっている要素を捉えたり、それらを生かして表現や鑑賞の活動を進めたりできるよう、教材が適切に配置されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(音楽・器楽) No. 1

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
G	<p>○「演奏の仕方を身につけよう」と「合わせて演奏しよう」で構成されており、前半で基礎的な知識や技能を習得し、後半で奏法を確認したり楽曲の特徴を感受したり、楽しく学習することができるよう工夫されている。(目次)</p> <p>○各楽器の学習で、基礎的な技能と関連のある楽曲が配置されており、表現しながら技能が習得できるよう配慮されている。</p>	<p>○各楽器の導入で、それぞれの楽器の紹介や基礎的な奏法について、分かりやすい写真と解説がまとめて多く示されている。</p> <p>○「表現の仕方を調べてみよう」では、楽器表現や鑑賞を通じて学習した楽器の音の出る仕組みや旋律の特徴に着目し、話合いを通して学びが深められるよう工夫されている。(p. 30, 55)</p>	<p>○デジタルコンテンツ「まなびリンク」を活用することにより、動画で模範演奏を視聴することができ、主体的な学習ができるよう配慮されている。(p. 12, 17)</p> <p>○「リコーダー運指表」や「ギター&キーボードコード表」が見開きページで示され確認しやすくなっており、また、コードは色分けされて示されており一目で分かるよう配慮されている。(p. 103-106)</p>	<p>○「Let's play!」や「Let's Try!」では、クラシック、ポピュラー、民謡など幅広いジャンルから各楽器の特徴を生かした教材が取り上げられており、生徒の実態に合わせて選択できるよう配慮されている。(p. 64-95)</p> <p>○各楽器の学習で題材ごとにまとめた曲やオプション教材、深めてみよう等が準備されており、学びを深める工夫がされている。また、学習した基礎的な奏法を曲のどこで使うのか一目でわかるように楽譜の中に番号等が示され、学びの成果を感じることができる。(p. 39, 45)</p>	<p>○「音楽のチカラで人と社会を未来へつなぐ」では、音楽を介した人と音楽のつながりや人と社会とのつながりを生み出す取り組みについて紹介している。(p. 4)</p> <p>○「吹く楽器の仲間たち」や「弾く楽器の仲間たち」では、楽器の背景にある風土や文化、歴史、伝統などについて調べたり、楽器と形の関係についてキーワードをもとに思考したりすることができるよう工夫されている。(p. 31, 56-57)</p>	<p>○「名曲旋律集」では、鑑賞教材や歌唱教材に関連した旋律と中学生になじみのある旋律が掲載され、学習を進展させることができるよう工夫されている。(p. 98-101)</p> <p>○リコーダーの練習曲にコードネームがつけられており、和音を感じながら表現したりギターやキーボードと一緒に演奏したりできるよう配慮されている。(p. 11, 14, 17, 20)</p>	<p>○幅広いジャンルの楽曲が多数掲載されており、地域や学校ごとのカリキュラムに対応したり、生徒の実態に応じて選曲したりできるよう配慮されている。</p> <p>○習得した技能を使って発展的な学習内容に取り組んだり、多彩な合奏教材に取り組んだりできるよう配慮されている。</p>
H	<p>○各楽器のページにおいては、生徒の実態に合わせて基礎的な技能を習得できるよう、平易な曲から学習できるなどのきめ細かな配慮がなされている。(p. 10-67)</p> <p>○歌唱教材、鑑賞教材で扱われている作品を、実際に楽器で演奏できるよう工夫されている。(p. 24, 40, 72, 78-79, 99)</p>	<p>○各楽器の導入においては、生徒の実態に合わせて基礎的な技能を習得できるよう、写真を使って簡潔にまとめて示されている。(p. 10-67)</p> <p>○「学びのコンパス」では、曲に対する自分の考えをもち、友達との意見交流を通して器楽の学習を深めることができるよう配慮されている。(p. 17, 55, 81, 85)</p>	<p>○デジタルコンテンツで、伴奏やワークシートなどが示され、生徒が主体的に学習したり、理解を深めたりすることができるよう工夫されている。</p> <p>○様々なジャンルの名曲の旋律をリコーダーや和楽器などで演奏することを通して、それらに親しめるよう工夫されている。(p. 96-99)</p>	<p>○リコーダーの教材は、多くの曲でアルトリコーダーとソプラノリコーダーの楽譜が両方載っており、同じ指づかいで移調奏ができるように配慮されている。(p. 14-24)</p> <p>○既習の学習内容をふまえながら、箏を用いて無理なく行える創作の活動が設定されており、手順も丁寧に示されており、主体的に活動ができるよう工夫されている。(p. 43)</p>	<p>○郷土の祭りや芸能など、音楽が生活や社会の中で果たしている役割に気づく学習活動を通して、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるよう工夫されている。(p. 50, 56, 59)</p> <p>○音楽活動の経験や音楽科で得た知識を、学校生活や家庭、地域社会での生活に生かすことができるように、生活の中にある様々な音や音楽への関心を促すように配慮されている。(p. 2-5, 50, 56, 59, 107)</p>	<p>○和楽器の学習では、それぞれの楽器の奏者からのメッセージが載っており、生徒が身近に感じられるように工夫されている。また、親しみや実感をもって表現できるように、唱歌を歌う活動などが示されている。(p. 34-62)</p> <p>○和楽器のページにおいては、姿勢や礼儀などについてのコラムも掲載されており、我が国の伝統的な音楽文化を様々な角度から理解することができるよう工夫されている。(p. 34-62)</p>	<p>○各楽器がバランスよく取り上げられており、それぞれの特徴や基本的な奏法を理解できるよう、分かりやすい写真と丁寧な説明文で示されている。(p. 10-67)</p> <p>○全体を通して、過不足のない分量の教材が取り扱われ、各教材の学習内容が明確に示されるとともに、それに即した活動の具体的な手立てやヒントが分かりやすく適切に取り上げられるなど、目的に応じた扱い方の工夫がなされている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(美術) No. 1

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
D	<p>○1年と2・3年の2冊に整理されており、「学びの資料」として題材に関する資料が巻末にあり、授業で活用できるようになっている。</p> <p>○多くの題材で、たくさんの参考作品が提示されていたり、制作過程が示されていたりしており、具体的なイメージをもって学習に臨みやすくなっている。(2・3年p. 10-13)</p>	<p>○それぞれの題材で、鑑賞、発想・構想、知識・技能のページに整理されており、制作の見通しや具体的なイメージをもって学習に臨むことができるよう工夫されている。(1年p. 40-43, 2・3年p. 48-51)</p> <p>○学びの資料に「展覧会をつくる」というのがあり、表現や鑑賞の活動とは別の美術の面白さを味わえるよう工夫されている。(2.3年p. 94-95)</p>	<p>○表紙が作品の質感等を感じられるように工夫されており、生徒の興味・関心を引くようなデザインになっている。</p> <p>○アニメ監督、漫画家、絵本作家、デザイナー等、生徒が興味関心を持つ人物の言葉や制作過程を取り上げている。(1年p. 8-9, 13, 58-59, 2・3年p. 2-5, 24-25, 60, 120-127)</p>	<p>○美術用語など読みづらい漢字にはルビがつけられている。</p> <p>○「美術の用語」として、美術の専門用語を分かりやすく短い文で紹介したり解説したりしている。(1年p. 22, 41, 48, 52, 2・3年p. 19, 44)</p>	<p>○題材と関連付けて、実生活の中のSDGsにつながる内容をコラムの形で紹介している。(1年p. 53, 2・3年p. 89)</p> <p>○巻末の「学びの資料」は著作権や肖像権などの内容を説明するなど他の教科でのまとめ学習や実生活でのSNS等の利用の際に必要な内容になっている。(1年p. 57, 2・3年p. 109)</p>	<p>○題材ごとに、二次元コードでワークシートにアクセスすることができるよう工夫されている。</p> <p>○作品の一部や実物の原寸大の大きさの写真が掲載されており、実物を想像したり、身近に感じたりしながら鑑賞できるよう工夫されている。(1p. 29-30, 52-53, 2・3年p. 26-31)</p>	<p>○表紙が作品の素材等を再現した質感となっていたり、漫画家など生徒が興味のある人物を取り上げたりすることで興味・関心をもてるよう工夫されている。(1年p. 8-9, 2・3年p. 2-5)</p> <p>○「発想・構想」「知識・技能」「鑑賞」の学習の目標に対応して色分けされ、題材に応じて適切に整理されている。(1年p. 40-43, 2・3年p. 48-51)</p>
I	<p>○資料を別冊とし、3年間を通して活用できるよう工夫されている。携行しやすいコンパクトな設計になっている。</p> <p>○作品の制作過程や完成作品を題材によってページ数を増やして掲載することで、見通しをもって学習に取り組むやすいよう工夫されている。(1年p. 24-27, 2・3年p. 8-11)</p>	<p>○「日本の絵画を楽しむ五つのキーワード」として、材質の違うページを設け、日本絵画の特徴を5つに整理して学習できるようになっている。(2.3年p. 27-42)</p> <p>○表現の題材において、鑑賞から発想・構想へつなげ、制作ののちに再び鑑賞をする構成になっており、表現と鑑賞を関連付けるよう工夫されている。(1年p. 24-27, 2・3年p. 8-11)</p>	<p>○「今の自分、これからの自分」で作者の言葉を作品の近くに「」で掲載することで題材への興味をひくよう工夫されている。(2・3年p. 54)</p> <p>○二次元コードから、作品の解説を見たり聞いたりすることができることや、生徒の参考作品を見ることができるようになっており美術が苦手な生徒でも学習に興味関心を持ちやすいよう工夫されている。(1年p. 28, 2・3年p. 52)</p>	<p>○「みんなの工夫」として、同学年の発想・構想が作者の言葉と写真で掲載されており、少人数の学校でも参考にできるよう工夫されている。(1年p. 17, 26, 54, 2・3年p. 10, 56-57, 72, 90-91)</p> <p>○作品名や作者名、美術用語など美術を学習する上で必要な箇所に適度にルビがつけられている。</p>	<p>○「○○科とのつながり」として、他教科等との関連を示し、教科等横断的な視点をもちて学習に臨むことができるようになっている。(1年p. 60, p. 68-69, 2・3年p. 79, 85, 91)</p> <p>○「暮らしの中のデザイン・工芸 一日の生活の中にあるデザインされたものや工芸品を探してみよう。」では、自分たちの生活と美術のつながりがまとめられており、美術を身近に感じられるようにしている。(2・3年p. 68-69)</p>	<p>○リンゴをもとにした様々な作品を紹介し、自由に発想できることが示されており、発想の広がりを促している。(1年p. 14)</p> <p>○鑑賞において、二次元コードから書き込みツールや解説動画、鑑賞を広げる言葉集を活用することができ、詳しく学習したり、学習を深めたりすることができるよう工夫されている。(1年p. 21, 42, 59, 2・3年p. 1, 26, 66)</p>	<p>○一題材を、参考作品の鑑賞、表現(発想・構想)、関連作品の鑑賞の順に構成し、POINTで造形的な視点について示すなど学習の過程が分かるよう工夫されている。(1年p. 24-27)</p> <p>○3年間使用のコンパクトな別冊資料で既習事項を確認できたり、日本絵画の鑑賞のポイントを整理した材質の違うページを設けたりするなど学習が深まるよう工夫されている。(2.3年p. 27-42)</p>

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1. 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
0	<p>○3つの分冊により、1年は「美術との出会い」、2・3年上は「学びの実感と深まり」、2・3年下は「学びの探求と未来」と題し、系統的に学習できるよう工夫されている。</p> <p>○「表現のヒント」「造形的な視点」といった重要な部分を囲むことにより明確に視覚化しており、発想・構想や作品制作の参考となる言葉の投げかけが示されている。(1年p.13, 2・3年上p.15, 2・3年下p.37-43)</p>	<p>○「住み続けられる町づくり」は、建物やスペースのデザインにとどまらず、SDGsを意識する町のデザインを取り上げた題材となっている。(2・3年下p.46-47)</p> <p>○「筆と水で多彩に表す」「絵巻物の世界」では、生徒が身近に感じにくい墨画や絵巻物等の題材を、現代作家や漫画・アニメと関連付けることで、題材として取り扱い易いよう工夫されている。(2・3年上p.22-23, 2・3年下p.54-55)</p>	<p>○表紙と裏表紙の全体で大きく作品を掲載することで、より鮮明に作品を見ることができ、また、各学年のテーマに基づいた作品を表紙に選択し、生徒が興味を持てるよう工夫されている。</p> <p>○「屏風、美のしかけ」では、屏風の作品を実際に折り曲げて机の上に置き、実際の屏風と同じような状態で鑑賞できるよう工夫されている。(1年p.24-29) また、作品を「原寸大」で掲載するページを設けることで、それらの作品をより実像として感じ取りやすいよう配慮されている。(1年p.56, 2・3年上p.26, 2・3年下p.24)</p>	<p>○「造形的な視点」として、造形的な見方・考え方が働き、その題材における造形的な視点が明確に意識できるよう工夫されている。(1年p.19)</p> <p>○「どこまで修復すべきか」では、美術作品を後世にいかに残すのかという問いかけをすることで、美術文化の継承の意義、未来に伝えるべき美術文化のありようについて考えられるよう工夫されている。(2・3年下p.34-35)</p>	<p>○芸術家以外の有名人と美術とのかかわりを示すことで、美術は誰にでも生活に役立つ学びとなるよう工夫されている。(2・3年下p.5-7)</p> <p>○カリキュラム・マネジメントの視点で題材と道徳の価値項目との関連について目標が明記され、美術の授業を通して道徳性が養われるよう配慮されている。(1年p.24, 2・3年上p.46, 2・3年下p.14)</p>	<p>○「短時間でつくる」として、短時間でできる題材で体験的な活動ができるよう工夫されている。(1年p.21)</p> <p>○二次元コードや「ICT」のマークを付けることで、1人1台端末を活用した指導や鑑賞の手助けとなる配慮がなされている。併せて、日常的なICTの活用につながるよう工夫されている。(2・3年上p.13-14)</p>	<p>○各題材の「鑑賞の入り口」により、題材のねらいに迫る導入が促されているとともに、「学びの目標」により3観点それぞれの評価ポイントが明示されており、学習のポイントを理解して活動できるよう工夫されている。(1年p.16-17)</p> <p>○作品を拡大した表紙をはじめ、掲載されている参考作品が、いずれも美しく印刷されており、折り曲げて鑑賞できる屏風作品などにより、興味・関心をもって学習できるよう工夫されている。(1年p.24-29)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(保健体育) No. 1

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
A	<p>○「見つける」「課題の解決」「広げる」の流れが統一されており、生徒が学びの中で自分事として考えたり、より深く学ぶために調べたりするなど、学習の流れが工夫されている。</p> <p>○キャラクターが学習のポイントや問いかけをしており、学習内容の深まりを促すよう工夫されている。(p. 48-49)</p>	<p>○「見つける」では、これまでの生活や学習の中での経験を振り返ることで、本時の学習への関心が高まるよう工夫されている。(p. 42)</p> <p>○章の最後に「学習のまとめ」として、章末問題や日常生活に生かすワークシートにつながる二次元コードがあり、学習の定着への工夫がされている。(p. 88)</p>	<p>○自分で操作したり疑似体験をしたりできるデジタルコンテンツがあり、学習への理解をより深められるよう工夫されている。(p. 75)</p> <p>○「出典一覧」が提示しており、学習内容に関心を持ち、より深い学びを促すよう工夫されている。(p. 171-172)</p>	<p>○「広げる」では、自分の生活や住んでいる地域について考えさせる投げかけがされており、実生活に生かすことができるよう工夫されている。(p. 97)</p> <p>○ユニバーサルデザインの観点で文字のフォントや、資料の配色が工夫されており、誰もが使いやすい資料としての配慮がされている。(p. 80, 92)</p>	<p>○各章の扉に、その章の学習内容に関連した職業が紹介されており、生徒が将来について考えるきっかけになるよう工夫されている。(p. 121)</p> <p>○学習内容とつながる他教科の学習項目を提示することで、関連付けて学ぶことができるよう工夫されている。(p. 30)</p>	<p>○「保健体育の学習方法」「教科書の使い方」が分かりやすく提示しており、生徒が学習の見通しをもって取り組むことができるよう工夫してある。(p. 6-11)</p> <p>○「章末資料」では、スポーツへの多様な関わり方やスポーツの進化について、インタビュー記事や写真の使用によって、生徒が興味関心をもつよう工夫されている。(p. 62-65)</p>	<p>○性・国籍・色覚等様々な多様性の尊重、共生社会、SDGs など、現代的な諸課題への対応について工夫されている。</p> <p>○「巻末スキルブック」で健康や安全に関するスキルが紹介されており、生徒が自分や周囲の健康や安全について考えるだけでなく、行動できるよう工夫されている。(p. 177-194)</p>
B	<p>○左ページに本文、右ページに資料と分けて提示されており、学習内容を整理しやすいよう配慮されている。(p. 30-31)</p> <p>○各章の終わりに「章末資料」として学習内容をより深めて考えるための参考資料が提示してあり、理解を深めるための工夫がされている。(p. 26)</p>	<p>○「学習のねらい」がタイトルの横に提示してあり、目標が視覚的にも分かりやすく、見通しを持ちやすくなるよう工夫されている。(p. 132)</p> <p>○各章末に「学習のまとめ」として重要な言葉のまとめが提示されていたり、二次元コードを読み取ってまとめ問題に取り組むことができるなど、学習の定着への工夫がされている。(p. 88)</p>	<p>○学習内容に関連の深い話題が、「ミニ知識」や「トリビックス」で紹介されており、学習を深めたり広げたりするよう工夫されている。(p. 44-45)</p> <p>○各章末に「学びを活かそう」が掲載されており、学習した内容を生徒が実際の生活場面に活用したり、学習をより深く理解したりすることができるよう工夫されている。(p. 52)</p>	<p>○運動やスポーツの効果について、他章での学習内容と関連する項目が提示されており、多角的に理解することができるよう工夫されている。(p. 56)</p> <p>○ユニバーサルデザインの観点で文字のフォントや、資料の配色が工夫されており、誰もが使いやすい資料としての配慮がされている。(p. 74-75)</p>	<p>○「活用して深めよう」では、学んだことを自分事として考え、実生活にいかすことができるよう工夫されている。(p. 47)</p> <p>○学習内容とつながる他教科の学習項目を提示することで、関連付けて学ぶことができるよう工夫されている。(p. 20)</p>	<p>○「教科書の使い方」「1時間の学習の主な流れ」が分かりやすく掲載されており、生徒が学習の見通しをもって取り組むことができるよう工夫されている。(p. 15-17)</p> <p>○学習内容に関する動画やアニメーションなどで学べるデジタルコンテンツが用意されており、学習を支援し理解を深めることができるよう工夫されている。(p. 97)</p>	<p>○性・国籍・色覚等様々な多様性の尊重、共生社会、SDGs など、現代的な諸課題への対応について工夫されている。(p. 38, 6-7)</p> <p>○「リンク」には、関連した内容を学習するページや他教科等とのつながりが示されており、系統的な学びにより学習がより深まるよう工夫されている。(p. 138)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(保健体育) No. 2

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
K	<p>○文章量が多すぎず、内容が整理されている。イラストや写真が豊富に掲載されており、視覚的にも理解しやすいよう工夫されている。(p. 8)</p> <p>○各ページに二次元コードが掲載されており、端末を活用して理解を深めることができるよう工夫されている。(p. 11)</p>	<p>○章のはじめに「課題をつかむ」が提示しており、これから学習していく内容のイメージがわかりやすいよう工夫されている。(p. 6)</p> <p>○章の最後に「学習のまとめ」が設定しており、学習したことを振り返り、生活にどう生かしていくか考えることができるよう工夫されている。(p. 7)</p>	<p>○「サッカーボールの進化」のページでは、実際の写真が使用されており、興味関心を持ちやすいよう工夫されている。(p. 12)</p> <p>○各章に、デジタルコンテンツとして「ほけんクイズ」が設定されており、生徒が楽しみながら学習できるよう工夫されている。(p. 7)</p>	<p>○「がん」についての学習では、4ページにわたり詳しく取り上げてあり、生徒がこれからの生活に生かしていけるよう工夫と配慮がなされている。(p. 84-87)</p> <p>○「効果的な学び方」として学習の仕方をPDCAサイクルを利用して示しており、生徒が日々の授業にすぐに生かせるようになっている。(p. 69)</p>	<p>○「災害から身を守る」の学習では、命を守るための行動であることを強調しており、生徒が自分事として捉えることができるよう工夫されている。(p. 120-123)</p> <p>○各章にコラムとして今日の健康課題が多く取り上げられており、生徒がさらに調べてみたくなるよう工夫されている。(p. 18)</p>	<p>○実習にかかわる内容では、二次元コードから動画を見ることができるようになっており、いつでも確認できるように工夫されている。(p. 116-119)</p> <p>○目次に資料や特集がどこに載っているか示しており、すぐに確認できるように工夫されている。(見開き)</p>	<p>○文章量が多すぎず、内容が整理されている。イラストや写真が豊富に掲載されており、視覚的にも理解しやすいよう工夫されている。(p. 8)</p> <p>○実習にかかわる内容では、二次元コードから動画を見ることができるようになっており、いつでも確認できるよう工夫されている。(p. 116-119)</p>
P	<p>○ページの終わりに「探究」「リンク」「情報サブリ」等が示しており、生徒が自主的に学習できるよう工夫されている。(p. 21)</p> <p>○章のはじめのページにデジタルコンテンツが閲覧できるようにしており、この章で学ぶことのイメージを持ったうえで進めることができるよう工夫されている。(p. 27)</p>	<p>○「学びを生かす」が設定されており、学習したことを応用したり、自分なりに工夫して生活にどう生かしていくか考えることができるよう工夫されている。(p. 109)</p> <p>○ウォームアップがページ毎に設定されており、生徒は自分なりの仮説や疑問をもって学習に臨むことができるよう工夫されている。(p. 16)</p>	<p>○資料に、吹き出し等が効果的に使用されており、内容がより理解しやすく、興味関心を持てるよう工夫されている。(p. 97)</p> <p>○章の終わりの「探究」では、ロールプレイができるように会話文等が載っており、生徒同士で実習できるよう工夫されている。(p. 67)</p>	<p>○「エクササイズ」ではイラストの見た目や雰囲気にとらわれずに、情報を裏付けた思考ができるよう工夫されている。(p. 47)</p> <p>○調和のとれた生活のページでは、生活チェック表が載っており、運動や休養、食事について、見直したり、改善したりできるよう工夫されている。(p. 37)</p>	<p>○スポーツや保健に関連する職業が、インタビュー形式で紹介されており、キャリア教育につながるよう工夫されている。(p. 103)</p> <p>○「リンク」では、もっと学習したいことや気になったことをインターネットで調べることができるように、検索ワードがわかりやすいよう工夫されている。(p. 95)</p>	<p>○文章中の重要語句については太文字で表記するなど、大切な部分がわかりやすいよう工夫されている。(p. 20)</p> <p>○フォントにUDデジタル教科書体が使用され、さらにフリガナが適宜ふられていることから、誰もが読みやすいよう工夫されている。(p. 16)</p>	<p>○章のはじめのページにデジタルコンテンツが閲覧できるようにしており、この章で学ぶことのイメージを持ったうえで進めることができるよう工夫されている。(p. 27)</p> <p>○フォントにUDデジタル教科書体が使用され、さらにフリガナが適宜ふられていることから、誰もが読みやすいよう工夫されている。(p. 16)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(技術) No. 1

記号	選定に必要な資料の観点						総括
	1 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
A	<p>○学習指導要領に示された「生活や社会を支える技術」「技術による問題の解決」「社会の発展と技術」の3要素に沿った章構成で、学習が系統的に進められるよう配列されている。(p. 3)</p> <p>○「SDGsとTechnology」「Society5.0」をテーマに全体的に資料が充実している。(p. 10-11)</p>	<p>○単元が見開き2ページにまとめられている。学習の流れが見える紙面デザインとなっている。(全ページ)</p> <p>○問題解決の題材例を見開きでまとめ、発展例を「もっと問題解決」として示すなど、主体的な問題解決に配慮した使いやす構成となっている。(p. 72-77)</p>	<p>○各編の導入で身の回りの製品や社会における技術を取り上げ、技術の見方・考え方を働かせて既存の技術の工夫を読み取ることができるよう工夫されている。(p. 26)</p> <p>○「問題解決の見える化」とそのプロセスが見開きでまとめられており、見やすく生徒の興味をひきやすい。(p. 56-59)</p>	<p>○電子黒板に教師用デジタル教科書を投影し、視覚的に理解させることができるので生徒の興味を引きやすい。</p> <p>○安全について巻頭でふれるとともに、実習を伴うページでは「安全」「衛生」として写真やイラストを使って注意を促すよう配慮されている。(p. 8-9, 40-43)</p>	<p>○実生活で活用されている日本製品を取り上げ、開発者のインタビューを活字もしくは動画で紹介し、技術分野の問題解決が持続可能な社会の構築に果たす役割を意識できるよう工夫されている。(p. 167)</p> <p>○「学んだことを社会に生かす」では社会人のメッセージを掲載し、技術の学びを生かして働く人々の思いから学ぶことができるよう配慮されている。(p. 275)</p>	<p>○二次元コンテンツの充実、全ての単元に「動画」「思考ツール」「シミュレーション」「ワークシート」「クイズ」「資料・図鑑」「WEBサイト」「他教科リンク」のいずれか効果的なコンテンツがタブレットPCで利用可能になっている。(全ての奇数ページ)</p> <p>○色覚特性に配慮したデザインでユニバーサルフォント、ユニバーサルカラーを採用し見やすい。(全ページ)</p>	<p>○教師用デジタル教科書と電子黒板を活用することで、動画再生や拡大表示、書き込みが可能なので、生徒の興味を引きやすく教えやすいつくりになっている。(p. 158)</p> <p>○豊富な二次元コンテンツで1人1台タブレットPCを活用しやすい。副免や免許外の先生も活用しやすい。(p. 4-5)</p>
C	<p>○生徒に親しみのある漫画を用いて問題解決の流れを学べるページを設け、生徒が主体的に問題解決に取り組めるよう工夫されている。(p. 36-37)</p> <p>○教科書本体では題材例に沿って製作過程を提示し、基礎技能は別冊でまとめて説明することで、基礎技能を習得しやすいよう工夫されている。(p. 54-59)</p>	<p>○それぞれの分野が内容ごとに「見つける」、「学ぶ」、「ふり返る」の3つのステップから構成されており学習の定着を図るよう工夫されている。(p. 16-17)</p> <p>○「プチ問題解決にチャレンジ!」や複数の素材を用いた題材例では、作業手順を複数ページにわたり写真で示し、生徒が理解しやすいよう工夫されている。(p. 38-41)</p>	<p>○「技ビト」では、技能を身につけた人物に焦点をあて紹介することで、興味・関心を高められるよう工夫されている。(p. 65)</p> <p>○実習や作業の様子が動画視聴できるよう二次元コードが配置されていることで、学習内容の理解が高められるよう工夫されている。(p. 65, 別冊p. 3)</p>	<p>○技術による問題解決の流れを丁寧に説明することにより、生徒が主体的に問題解決に取り組むことができるよう工夫されている。(p. 8-9)</p> <p>○安全について巻頭でふれるとともに、実習の前の特設ページ「実習の安全な進め方を知ろう」によって安全への意識を高められるよう配慮されている。(p. 12-13, 34-35)</p>	<p>○「技ビト」「スゴ技」といったコラムを掲載し、生徒が生活や社会の中で使用される技術について興味・関心をもてるよう配慮されている。(p. 22, 29)</p> <p>○「もっと知ろう」として、実生活で技術がどのように利用されているかがわかりやすく紹介されており、興味・関心をもてるよう配慮されている。(p. 17)</p>	<p>○図や写真、イラスト、表の資料を多く用いるとともに、本文中では資料との関連を色付きマーカーで明示している。(p. 120-123)</p> <p>○設計・計画シートが切り離して使用できるようになっている。(巻末)</p>	<p>○各編の扉に社会で利用されている最先端技術の写真を大きく配置し、技術への興味・関心を高められるよう工夫されている。(p. 70-71)</p> <p>○全内容の最後の「夢をかなえる技術」では、複数の内容を組み合わせた問題解決の実例を示すことで、学習内容を今後に生かす意欲を高められるよう配慮されている。(p. 246-249)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(技術) No.2

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
D	<p>○巻頭のガイダンスで全体の学習過程を示すとともに、各章で内容ごとに学習活動を示すことで、技術分野の問題解決について把握しやすいよう工夫されている。(p. 6-17)</p> <p>○イラストや写真の数も多いので視覚的に理解できるよう工夫されている。(p. 30-33)</p>	<p>○単一の素材を用いた実習例が多数提示されており、実習例ごとの問題解決のプロセスが具体的でわかりやすくなっている。(p. 62-73)</p> <p>○各編の「学習のまとめ」には選択、記述、作図など多様な問題があり、学んだことを確認しやすくなっている。(p. 102-103)</p>	<p>○各編の冒頭に、キャラクターがテーマに沿った疑問を吹き出しで投げかけているので親しみやすい。(p. 114)</p> <p>○各ページの下段に「豆知識」が設けてあり、学習意欲を高められるよう工夫されている。</p>	<p>○4つの編ごとに「Interview」として各技術を仕事とする人物のインタビューを載せ、職業や勤労を重んずる態度を養えるようになっている。(p. 104, 105, 156, 284, 285)</p> <p>○安全について、巻頭では望ましい行動や環境をイラストやチェックリストで確認し、実習を伴うページでは安全マークによって留意するよう配慮されている。(p. 18-19, 79)</p>	<p>○小学校や他教科とのつながりを各編の扉に示し、関連箇所にもマークを示すことで、学年・教科横断的なカリキュラムを編成しやすいよう配慮されている。(p. 21)</p> <p>○各編の終末に「インタビュー」が設けられ、技術に関する職業理解や勤労を重んじるよう配慮されている。(p. 104-105)</p>	<p>○「命を守る防災、医療・介護の技術」が巻末にまとめて掲載され、社会の中で使われている技術について考えるきっかけとなるよう配慮されている。(p. 6-8)</p> <p>○多様な情報が得られるデジタルコンテンツにつながる二次元コードが多数設けられ、学習を深めることができるよう工夫されている。</p>	<p>○各編の扉に写真を大きく配置し、技術の歴史、社会の願いや要求についてもまとめられ、学習の流れがつかみやすくなっている。</p> <p>○巻末に「技術分野の出口」という章を設け、3年間の学習内容を振り返り、今後を展望できるように構成されている。(p. 286-289, 303)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(家庭) No. 1

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
A	<p>○内容は、ガイドンス、A「家族・家庭生活」の一部、B「衣食住の生活」、C「消費生活・環境」、A「家族・家庭生活」の順で構成されている。</p> <p>○二次元コードで学習内容に関わるデジタルコンテンツが確認できるよう工夫されている。(p. 30-31)</p>	<p>○「生活に生かそう」「まとめよう」では、ねらいに沿ったまとめができ、次の学びにつながるよう工夫されている。(p. 55, 61)</p> <p>○「考えてみよう」「やってみよう」「調べてみよう」などの活動に思考ツールを取り入れ、主体的・対話的で深い学びを通して、問題解決能力を高めることができるように工夫されている。(p. 6-7, 171)</p>	<p>○子どもにとって身近なアニメや漫画を例に挙げて興味を引き、学習内容を理解しやすいよう工夫されている。(p. 21)</p> <p>○各編の扉では、見開きの写真で関心を抱かせ、キャラクターの言葉で課題設定のヒントを示し、個人でチェックできるよう配慮されている。(p. 116-117)</p>	<p>○巻頭に「実習を楽しく安全に進めよう」を設け、「感染症などへの対策」等はイラスト入りで示され、安全面に留意しやすいよう配慮されている。(p. 8-9)</p> <p>○各編の「学習のまとめ」に「大切な用語の確認」や「確認問題」を設け、基礎的・基本的な知識の定着が図られるよう配慮されている。(p. 164-165)</p>	<p>○巻末に「学んだことを生活に生かす」を設け、家庭分野の各内容を深めるとともに、働く人たちの学習内容別に取り上げ、学習内容と社会のつながりを感じることができるよう工夫されている。(p. 284-285)</p> <p>○巻末に「災害に備える」を設け、家庭分野で学んだことを防災・減災に生かせるよう配慮されている。(p. 286-287)</p>	<p>○安全面への配慮から食物アレルギーについて掲載し、注意を促すマークをつけることで、食生活で常に留意することができるよう工夫されている。(p. 59, 82-87)</p> <p>○折り込みページを参照しながら効果的に学習を進めることができるよう工夫されている。(p. 41-47)</p>	<p>○各節は「目標」、「レッズスタート」、「学習課題」、本文、図版、「考えてみよう」、「まとめよう」の流れで統一され、授業の流れがわかりやすく構成されている。(p. 118-119)</p> <p>○A「家族・家庭生活」の一部、B「衣食住の生活」、C「消費生活・環境」、A「家族・家庭生活」の順で構成することで、3年間の計画が立てやすいよう工夫されている。</p>
C	<p>○内容は、ガイドンス、A「家族・家庭生活」B「衣食住の生活」C「消費生活・環境」の順で構成されている。</p> <p>○各章のはじめに「自立度チェック」があり、生徒が生活を振り返りその中から問題を見出すことができるよう工夫されている。(p. 14-15)</p>	<p>○「考えてみよう」ではロールプレイなど体験的な活動例が掲載されており、主体的・対話的で深い学びとなるよう工夫されている。(p. 17, 24)</p> <p>○「学習の振り返り」では、3観点に沿った問題に取り組むことで学習の振り返りを行うことができ、学習内容が確実に身につくよう工夫されている。(p. 34, 68)</p>	<p>○ページの下部の二次元コード横にデジタルコンテンツの名が記載されており、活用するうえでわかりやすいように工夫されている。(p. 13, 23)</p> <p>○生活と学びをつなげるための、ほぼ原寸大の食品写真やイメージしやすいイラストなど掲載して、興味・関心を高めるよう工夫されている。(折込①-⑥, p. 212-213)</p>	<p>○各章末の「学びを生かそう」では、既習事項を踏まえた問題解決学習の具体的な例が示されており、学んだ知識や技能が生かせるよう工夫されている。(p. 66-67, 78-79, 194-195)</p> <p>○「実習は安全に取り組もう」では、様々な実習の安全面に関する留意点や地震が起きた際の身の守り方をイラストや二次元コードを使ってわかりやすく示す、実際に学習する際に関連する内容とページを示すなど、安全面に留意しやすいよう工夫されている。(p. 12-13)</p>	<p>○家庭分野の学習に関係のある人のアドバイスなどが掲載されており、生活の参考になるよう工夫されている。(p. 35, 151, 221)</p> <p>○導入で「見つめる」「見つめてみよう」を設けることで生徒自身の生活を見つめ、「学ぶ」「ふり返る」ことで生活の営みに関する見方・考え方が養えるよう、工夫されている。(p. 74-75, 174-175)</p>	<p>○特定原材料を使用する料理の代替食品の例を挙げ、材料分量に赤の下線を引く、食物アレルギーのある生徒に対応できるよう配慮されている。(p. 116)</p> <p>○災害時の衣生活・食生活について考えたり、具体的な実践例を示したりするなど、防災に対する意識を高めるよう工夫されている。(p. 139, 171)</p>	<p>○「学びを生かそう」では、学習したことを生活に生かすための課題設定をし実践することにより、学習内容を日常生活につなげられるよう工夫されている。(p. 66-67, 148-149)</p> <p>○「自立度チェック」、「学習の振り返り」など、振り返りを重視し主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。(p. 15, 19, 25, 31, 34)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(家庭) No. 2

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
D	<p>○内容は、ガイドンス、A「家族・家庭生活」B「衣食住の生活」C「消費生活・環境」の順で構成されている。</p> <p>○目次の二次元コードからデジタルコンテンツ一覧にアクセスできる。(p. 1)</p>	<p>○各編の始めに学習する内容と小学校での学びを示し、生徒がスムーズに学習に取り組めるよう配慮されている。(p. 16, 88)</p> <p>○食生活の内容では、最後に1日の献立作りを配置することで、既習事項を活用できるよう工夫されている。(p. 166-167)</p>	<p>○ページの下部に「豆知識」の記載があり、学習内容に興味をもてるよう配慮されている。(p. 18-19)</p> <p>○食品名や材料名について見開きを使ってクイズ形式で考えさせることにより、食品に対する興味をもてるよう工夫されている(p. 96-97)</p>	<p>○各章の「学習のまとめ」では、イラストや写真付きの設問を取り入れており、生徒がイメージしやすいよう工夫されている。(p. 86-87)</p> <p>○「楽しく安全に実習しよう」では、準備のポイントやイラストを見ながら考えるQ&A、実際に学習する際に関連する内容とページが記載されており、安全に留意しやすいよう工夫されている。(p. 14-15)</p>	<p>○家庭分野の学習に関係のある人のアドバイスなどが掲載されており、社会とのつながりを意識できるよう工夫されている。(p. 32-33)</p> <p>○防災について本文での記載内容以外に特設ページを設け、日常的な備えについて取り上げ生活に生かせるよう工夫されている。(p. 248-255)</p>	<p>○食品に含まれる栄養素を視覚的に示したり、食べ物が体内でどのように変化するかを図式化したりするなど、実感を伴って学習が進められるよう工夫されている。(p. 100-101, 104-105)</p> <p>○調理実習の材料について、アレルギー物質を含む食材を黄色マーカーで示し、食物アレルギーのある生徒に対応できるよう配慮されている。(p. 128, 130, 134, 138)</p>	<p>○課題を解決するためや内容の理解を助ける科学的な資料を視覚的に示すことで、興味・関心を高めるよう工夫されている。(p. 100-101, 190, 245)</p> <p>○発展的な内容を取り上げることで、生徒の主体的な学びを促し、視野を広げ、学びを深められるよう工夫されている。(p. 292-303)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(英語) No. 1

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
A	<p>○1年は10Unit、2年は8Unit、3年は6Unitから構成されており、各学年で学ぶ分量が適切になるよう配慮されている。(1年99時間、2年98時間、3年88時間)</p> <p>○語彙は小学校での既習語630語、中学校での進出語が1700語を合わせた2300語が設定されている。そのうち800語が発信語として設定されており、教科書内で繰り返し学習し定着できるよう工夫されている。</p>	<p>○Unitごとに単元のゴールとそれに基づいたUnit Activityが記載されており、自分の思いや意見を発信できるようになっている。(2年p. 56)</p> <p>○UnitのまとめごとにStageが設定されており、それまで習ったことを統合したStage ActivityをCAN DO CHECKとともに確認できるよう工夫がなされている。(2年p. 80, 81)</p>	<p>○Unitごとの表紙にはどんな題材を学ぶのか視覚資料とともに明示されており、生徒の興味や関心を高める工夫されている。(1年p. 81)</p> <p>○Language Focusというコーナーを設け生徒の言葉に対する気づきや関心を高める工夫がされている。(3年p. 35)</p>	<p>○言語を学ぶ上では欠かせない音読の回数を視覚的に記録できるよう工夫されている。(1年p. 75)</p> <p>○地球規模の諸問題を扱っているだけでなく、その解決に向けた具体的な行動の記述がある。また、Read and Think のRound3では自らの思いを表現することで課題を自分事として捉えられるようにしている。(3年UNIT p. 4, 6)</p>	<p>○表やグラフなど実生活でも目にする視覚的補助を使って聞くことや読むことの力がつけられるよう工夫されている。(3年p. 10, 52)</p> <p>○2年次からUnit Activity Plusの資料が用意されており、地球規模の諸問題や他教科との関連が分かるよう資料とともに掲載されている。(3年p. 140)</p>	<p>○各学年に帯活動用のSmall Talkが用意されており、自己発信の基盤となる表現の例も多く用意されている。(1年 p. 157)</p> <p>○高校での学習に繋がるディスコースマーカークーやパラグラフライティングについて記載されているページが用意されている。(3年p. 55, 144)</p>	<p>○デジタル教科書においては音声の確認だけでなく、本文の意味も確認することができるだけでなく、New WordsやKey SentencesにではQUIZ形式のものが多い用意されている。</p> <p>○領域別では主に読むことにおいては、ラウンドリーディングを用いて英文を効率的に読む工夫がなされている。</p>
D	<p>○1年はPROGRAM1から10、2年はPROGRAM1から8、3年はPROGRAM1から7で構成されており、年間140時間での指導・学習が余裕をもってできるよう配慮されている。(1年88時間、2年98時間、3年95時間)</p> <p>○語彙は、小学校の既習語606語、中学校の新出語は1644語が設定されている。発信語については、巻末資料で太字で記され、「しっかり覚えて使えるようにしよう」と生徒にわかりやすく示されている。(1年巻末資料8, 2年巻末資料7, 3年巻末資料3)</p>	<p>○生徒が興味を持ちやすい食文化を題材としたPROGRAMが多く、興味・関心を持って学べるよう工夫されている。(1年PROGRAM9, 2年PROGRAM3, 3年PROGRAM1, 5)</p> <p>○単元末のReview&Retellでは、「誰に、何のために伝えるのか」が明確に示されており、目的意識・相手意識を持った表現活動ができるよう工夫されている。</p>	<p>○各学年に3回設定されているCoffee Breakでは、本文題材に関連した英語特有の表現や異文化情報について興味を引くような工夫がされている。</p> <p>○各学年それぞれのPROGRAMで、新出表現の導入がマンガ形式でされており、どのような目的・場面・状況で使われるのか視覚的に判断しやすいよう工夫されている。</p>	<p>○各学年で、学期末の活動としてOur Projectが配置されており、その学期に学んだ表現を使って発表、やり取り、書くことができるよう工夫されている。</p> <p>○Our Projectでは様々な話題について発信するために対話を通した課題解決に向かう活動が設定されており、協同的な学びができるよう工夫されている。(2年p. 41-45)</p>	<p>○職業体験について扱ったり、世界各地で活躍する日本人について扱ったりすることで、職業観を育んだり、海外でのキャリア形成について考えられるよう配慮されている。(2年p. 65-74, 3年p. 126)</p> <p>○各学年で、SDGsに対応した題材が配置されており、教科横断的な学びを実現しやすいよう配慮されている。</p>	<p>○各学年、最後にCan-Doリストのページがあり、生徒がPROGRAMごとに「聞くこと」「読むこと」「やりとり」「話すこと」「書くこと」について、自分の達成度を記録することができ、主体的に学習する態度を身につけられるよう工夫されている。(1年p. 168-172, 2年p. 160-164, 3年p. 160-164)</p> <p>○1年の巻末資料にはアクションカードがあり、生徒の言語活動を広げる工夫がされている。</p>	<p>○デジタル教科書においては、インターネットのサイトに簡単にアクセスできるように工夫されており、ルビふりや白黒反転などの学習支援機能が搭載されている。また、AIによるスピーキング評価機能があり、発音練習に役立つ工夫がされている。</p> <p>○領域別においては、主に話すこと[発表]の教材が多く、教科書本文では対話文が多く用いられている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(英語) No. 2

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
F	<p>○1年は9Lesson、2年は8Lesson、3年は8Lessonで構成されており、各学年で学ぶ分量が適切になるよう配慮されている。このことにより生徒の実態に応じた指導が可能となっている。(1年97時間、2年95時間、3年93時間)</p> <p>○発信語彙と受容語彙がCEFR-J、主要辞書や学習者のコーパスを分析し、設定している。996語を発信語彙として取り扱っている。</p>	<p>○各学年2～3Lesson終了後、3回の統合的な活動と長めの長文に取り組むReading Lessonが設定されている。(1年p. 100, 102)</p> <p>○Lessonの始まりのページのPreviewではLessonの題材等を問いかける形式になっており、同じページに記載されているGoal ActivityによりLessonを通して見通しを持った学習が可能となっている。(2年p. 69)</p>	<p>○生徒の世代にあった実在の人物や漫画、小説を紹介しているLessonが用意されており、生徒の興味・関心が持てるよう工夫されている。(1年p. 37, 3年p. 57)</p> <p>○自身や他者を通して自らの興味や関心に向き合う題材が設定されている。(3年p. 106)</p>	<p>○Small Talk Plusではトピックの提示だけでなく、相手を意識した会話を継続することができる手立てが記載されており、自分発信でありながらも相手に応じた会話が継続できるよう工夫されている。(3年p. 49)</p> <p>○各学年の題材には自己発信の基盤となる多文化を理解することができるものが用意されており、英語を通じての自己理解ができるよう工夫されている。(3年p. 44)</p>	<p>○防災や環境、公平等日常生活に直結している諸問題について扱っている。(1年p. 117, 2年p. 45)</p> <p>○Language Focusでは形や意味だけでなく、文法項目がどのような場面で使われるのか動画を通して実生活と結びつけて確認することができる。(全学年)</p>	<p>○各学年の基本文のまとめにおいては、自分や身の回りのことも表現できるよう工夫されている。(全学年)</p> <p>○For Self-StudyやAudio Scriptsなど英語の学習方法や学び方が紹介されており、自律的な学習が可能となっている。(全学年)</p>	<p>○デジタル教科書においては、題材の関連資料や文法解説動画、単語のフラッシュカードを利用することができ、自立的な学習ができるように工夫されている。</p> <p>○領域別の主に話すこと〔発表〕においては、発表のモデルを動画で確認することができ、場面や状況だけでなく相手に配慮したスピーチができるように工夫されている。</p>
G	<p>○1年はLesson1から9、2年はLesson1から9、3年はLesson1から7で構成されており、年間指導時数内で余裕をもって指導できる配慮がされている。(1年109時間、2年109時間、3年106時間)</p> <p>○語彙は、小学校の既習語600語、中学校の新出語1688語とし、そのうち900語を発信語として設定している。中学校の新出語は、本文以外のTool Kit等でも扱うことで分散させ、学習者の負担を軽減するよう配慮されている。</p>	<p>○手話や車いす、盲導犬や聴導犬を題材としてとりあげ、障がいの存在だけでなく、それをフォローする方法について学ぶことができる配慮がされている。(2年Lesson1, Lesson9)</p> <p>○3年のLesson5で仮定法の学習が終了し、Lesson6とLesson7ではディスカッションやディベートの様々な表現を学ぶことができる構成となっている。</p>	<p>○各学年、Activity Plusでは、即興的なやり取りの力を伸ばす活動ができるよう設定されており、応答例も示してあるため、生徒が自己表現をする際に活用しやすいよう工夫されている。(1年p. 74, 3年p. 44)</p> <p>○Readingの教材は、生徒が日本語で読んだことのある題材や名前を聞いたことのある人物に焦点をあてた題材で生徒の興味・関心を引き出す工夫がされている。(1年p. 148-151, 2年p. 100-105, 3年p. 48-52)</p>	<p>○各学年、「Tips for Reading/Witing/Speaking/Listening」では、どのように読んだり書いたり等すればよいのかについてのコツが示されている。(3年p. 90他)</p> <p>○各学年、学期末の活動としてのProjectでは、思考ツールを使って考えを可視化し、深め広げて、まとまりのある英文を作る助けとなるよう工夫されている。(2年p. 128-129)</p>	<p>○各学年、目次のページで、SDGsに関連したLessonには、17の目標のいずれにあたるかマークで示されており、生徒が意識しやすくなっている。</p> <p>○別資料の「年間指導計画案(単元一覧表)」では、3年間でもとり上げる題材と関連する教科等の一覧を確認できるようになっており、他教科とのつながりを意識した指導をしやすいよう工夫されている。</p>	<p>○各学年、最後にCan-Doリストのページがあり、生徒が学年末に「聞くこと」「読むこと」「やりとり」「話すこと」「書くこと」について、到達度を自己評価できるよう工夫されている。</p> <p>○ジェンダーレスな表現やスカートやスラックスを履いた女子生徒のイラストを使用したり、代名詞の語形変化表には注として「性別を特定せず、その人をさしてtheyを用いることがある」と記載したりするなど、多様性への配慮がされている。(1年p. 154, 2年p. 129)</p>	<p>○デジタル教科書においては、自らの声を録音することができる機能が搭載されており、英語話者の音声と比較することができるよう工夫なされている。</p> <p>○領域別の主に話すこと〔やり取り〕では、Activity PlusやUseful Expressionを用いて継続性を持った即興的なやり取りの力が身につくよう工夫されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(英語) No. 3

記号	選定に必要な資料の観点						総 括
	1 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫	6. その他	
I	<p>○全学年、Unit1から8で構成されており、年間指導時数内で余裕をもって指導できる配慮がされている。1年100時間、2年106時間、3年95時間として、地域や生徒の実態に合わせた柔軟な指導ができるよう配慮されている。</p> <p>○語彙は、小学校の既習語578語、中学校の新出語は1959語(1年426語、2年614語、3年619語)であり、そのうち901語を発信語として設定している。</p>	<p>○各UnitのGoalでは、概要を読み取る力や要点をとらえる読み方など、英文を長文化する高校入試へ対応できるよう工夫されている。(3年p. 54-55, 68-69)</p> <p>○各学年、巻末にStory Retellingのページがあり、8Unit分のストーリーについてそれぞれ自分の言葉で伝えることができるようになっている。</p>	<p>○World Tourでは、生徒と同年代の人物を各学年に設定し、話題への興味・関心を高めるよう工夫されている。(1年p. 124, 2年p. 90, 3年p. 46)</p> <p>○各学年、帯教材のActive Wordsには、生徒が自ら表現しようとする活動を助ける様々な語彙や表現が記載されており、続く帯教材のLet's Talkへ活用しやすい工夫がされている。</p>	<p>○巻頭の「ICTを活用しよう」では、個別最適な学びや協働的な学びをサポートするコンテンツや活動が提示されている。(各学年巻頭⑤)</p> <p>○各Lessonの最後のGrammarでは、そのレッスンで学んだ英語のしくみがまとめて記載されており、文法事項を理解しやすいよう工夫されている。</p>	<p>○Daily Lifeでは、実生活に即した場面や題材を取り上げ、実践的な英語の力を伸ばせるよう工夫されている。</p> <p>○学期末のまとめのYou Can Do It!では、自分の学校や地域の魅力を伝え合う言語活動ができる工夫がされている。(2年p. 116-117)</p>	<p>○巻末付録の「思考の地図」では、思考ツールの英語での活用方法が紹介されており、生徒がまとまりのある英文を書いたりプレゼンをしたりするために役立つよう工夫されている。また、リンクするページにはアイコンが記されており、どの場面で使えばよいかも示されている。</p> <p>○巻末付録の「英語の学び方ガイド」では、スピーキングやライティングの学び方等について示されている。また、3年生教科書には時の表し方についてのイラストがあり、イメージしやすいよう工夫されている。</p>	<p>○デジタル教科書では、教科書のストーリーの実写ドラマを見ることができ、日本語にふりがなをふるなど読みやすさに配慮した機能が搭載されている。</p> <p>○領域別では主に話すこと[やり取り]においては、Active WordsとLet's talk!で基本文に準じた即興的なやり取りができる力が身につくよう構成されている。</p>
L	<p>○1年は10Unit、2年は8Unit、3年は6Unitから構成されており、各学年で学ぶ分量が適切になるよう配慮されている。(1年103時間、2年109時間、3年90時間)</p> <p>○語彙については約千語が重要語として設定されており、これらの語は意味を理解したうえで表現できる語として教科書においては太字で示されている。</p>	<p>○異文化理解や比較文化をとおして深い学びができる構成となっている。(1年p. 33)</p> <p>○各UnitのゴールがInputとOutputに分かれており学習の見通しがもちやすい構成となっている。(2年p. 49)</p>	<p>○各Unitの扉ではUnitの題材のテーマと関連がある絵や聞き取り問題があり、それらを通して生徒が興味・関心を持てるよう工夫されている。</p> <p>○自身や他者を通して自らの興味や関心に向き合う題材が設定されている。(3年p. 77)</p>	<p>○Let's writeでは目的や場面を設定し、まとまりのある文章を書くように工夫されており、公立高校入試問題で正答率の低い自己表現を促すよう工夫されている。(3年p. 62)</p> <p>○Projectでは様々な話題について発信するために対話を通した課題解決に向かう活動が設定されており、協働的な学びができるよう工夫されている。(3年p. 44)</p>	<p>○学校行事との関連が図られてあるUnitや他教科で学んだ内容を外国語学習を通して結びつけることで理解を深め、より広い視野で思考する工夫がなされている。(3年p. 17)</p> <p>○各学年で、SDGsに対応した題材が配されており、教科横断的な学びを実現しやすい配慮がされている。</p>	<p>○各学年、最後にCan-Doリストのページがあり、生徒が自己評価を記録することができ、主体的に学習する態度をみにつけられるよう工夫がされている。(全学年)</p> <p>○教科書の登場人物においては、多様性に配慮した設定となっている。</p>	<p>○デジタル教科書においては教科書本文のアニメーションや実写ドラマを見ることができ、そのことによってコミュニケーションの状況や場面を視覚的に確認することができる。</p> <p>○領域別の主に聞くことにおいて、Let's Listenを中心に多くの教材がバランスよく掲載されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(道徳) No. 1

記号	選定に必要な資料の観点					総括	
	1 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫		6. その他
A	<p>○35時間分の教材と4時間分の付録が用意され柔軟に指導できる。小学校道徳教材を配置し、生徒自身の道徳的価値の変容を感じさせるよう工夫されている。(1年p. 172-174)</p> <p>○全学年の巻頭ページに1年間の流れや授業の流れを示し、「道徳科とは」などが記載され、生徒が学習を進められるよう工夫されている。(全学年p. 2-7)</p>	<p>○全学年で「いじめのない世界へ」についてユニットが組まれている。またユニット「いのちを考える」では、防災について重点的に学習できる構成となっている。(3年p. 24-39, 73-76)</p> <p>○各教材末の「考えよう」「見つめよう」「ぐっと深める」では、教材の内容と実生活の両面から思考を深められるよう問いが工夫されている。(1年p. 11)</p>	<p>○NHK for Schoolの道徳番組が教材化されている。番組と合わせて教材を読むことで学習内容が理解しやすくなっている。(1年p. 120-123)</p> <p>○各学年に15本程度「Plus」というコラムが掲載され、ソーシャルスキルや体験的な学習などを通して、考えを深められるよう工夫されている。(2年p. 138)</p>	<p>○年度初めにいじめを題材にしたユニットを配置し、様々な立場からいじめについて考え、多面的・多角的にいじめを捉えられるよう工夫されている。(1年p. 22-33)</p> <p>○「外国から来た転校生」は、外国から転校してきた生徒との関わりを文化や習慣の違いについて考えられるような題材となっている。(3年p. 46-49)</p>	<p>○巻末付録に「教材一覧表」が設けられ、他教科等との関連を把握しやすいようにまとめられている。(1年p. 190-191)</p> <p>○現在活躍している人物を取り上げ、様々な生き方や考え方にふれることで、生徒が自分の将来やキャリアについて考えることができるよう工夫されている。(3年p. 122-125)</p>	<p>○全学年の巻末の「心情円」によって、生徒自身の思いを可視化することができる。また生徒同士で「心情円」を比較することで、多様な考え方があることに気づくよう工夫されている。</p>	<p>○教材末に「ぐっと深める」が設定され、中心発問や自己を見つめる発問で考えたことについて、多面的・多角的に考えを深めることができるよう工夫されている。(1年p. 11)</p> <p>○各教材末の「つぶやき」や巻末の「自分の学びを振り返ろう」が用意され、生徒の考えが記録できるよう工夫されている。(1年p. 10, 197)</p>
G	<p>○短い教材や見てわかる教材を積極的に掲載し「取り組みやすさ」に配慮したものとなっている。(1年p. 8-11)</p> <p>○巻頭の「さあ、道徳を始めよう！」では、道徳科の学び方や話合いのポイントが示されており、生徒が学習の見通しをもてるよう工夫されている。(1年p. 4-7)</p>	<p>○教材名の下に導入の問いが示されており、生徒が見通しをもち、考えをより深められるよう工夫されている。(3年p. 18-25)</p> <p>○1年から3年まで、友情を題材に同じ人物が登場することで生徒が内容を理解しやすいよう配慮し、発達段階に応じて内容項目が深まるよう工夫されている。(1年p. 134, 2年p. 120, 3年p. 86)</p>	<p>○写真や絵本、マンガなど理解がしやすく興味関心を高めるとともに、読むことだけでなく考えることに時間が確保できるよう工夫されている。(1年p. 8-11)</p> <p>○島根県出身の井手上漠さんの作文をコラムで取り上げることで、興味・関心を高めながら多様な生き方に対する人権感覚を育むことができるよう工夫されている。(1年p. 156-157)</p>	<p>○「いじめをなくそう」「いのちをかがやかせる」「つながり合って生きる」では、複数の教材やコラムをユニット化し、多様な考えが深まるよう工夫されている。(全学年p. 2-3)</p> <p>○情報モラルについて考える教材を学年ごとに系統的に扱っており、学びを積み重ねていくことができるよう工夫されている。(1年p. 38-41)</p>	<p>○全学年「内容項目別教材一覧表」で、各教材と他教科等との関連を示すことで、学校教育活動全体を通じて道徳教育が進められるよう工夫されている。(1年p. 200, 2・3年p. 192)</p> <p>○教材だけでなく、コラムなどでも他教科とのつながりを深めるための内容が取り上げられている。(1年p. 74-75)</p>	<p>○教材名の下に二次元コードにアクセスすると、「教材解説」として教材の要約が示され、生徒が内容を理解することができるよう工夫されている。</p>	<p>○「よりよく生きる」では、生徒自身が成長を実感できるよう工夫されている。また、未来の自分の生き方も考えることができるよう発問が設定されている。(1年p. 196-197, 2・3年p. 188-189)</p> <p>○導入となる問いにより題材に興味をもちながら理解できるように工夫されている。また、「学びの道しるべ」に3つの問いがあり、考えを広げたり深めたりできるよう工夫されている。(1年p. 8, 11)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(道徳) No. 2

記号	選定に必要な資料の観点					総括	
	1 内容、程度、分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫		6. その他
I	<p>○1、2年各35時間分、3年34時間分の教材がテーマに沿ってユニットとして組まれている。異なるいくつかの内容項目で構成され、多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。(1年p.60-81)</p> <p>○どの学年にも巻頭にオリエンテーションのページがあり、1年間の学習の見通しがもてるよう工夫されている。(1年p.6-11)</p>	<p>○複数の教材をまとめたユニットを構成し、目次に示している。学校生活に寄り添ったユニットテーマが設定され、道徳教育が学校教育活動全体を通じて行われるよう工夫されている。(全学年p.2-3)</p> <p>○「まなびをプラス」で前題材の学習とのつながりを示し、考えを深めながら学習できるよう工夫されている。(1年p.44)</p>	<p>○島根県出身モデルの井手上漠さんのコメントを掲載し、多様な生き方について深く考えられるよう工夫されている。(3年p.71)</p> <p>○絵本作家の書き下ろし「なんだろうなんだろう」やコラム「やってみよう」に「今日の『てつがく』」を掲載し、考えを深め合うことを楽しめるよう工夫されている。(2年p.82-84)</p>	<p>○ユニット「いじめを許さない心について考える」が設けられており、年度初めに全学年でいじめ問題について考えることができるよう工夫されている。(2年p.36-45)</p> <p>○少子化や核家族化が進むなかで「家族って？家庭って？」では、様々な家族について深く考えられるよう工夫されている。(3年p.94-97)</p>	<p>○各教材の「つなげよう」では、他教科との関連を意識したり、日常生活に学びが広がったりするよう工夫されている。(3年p.137)</p> <p>○付録の「教材別テーマ一覧」「この教科書が目ざした〇年生の姿」により、現代的な課題や各教科等の関わりをとらえられるよう工夫されている。(1年 p.182-184)</p>	<p>○付録の「まなびの道工具箱」では、各自で考えるときや話し合いのときに、考えを広げたり、分類・整理したりするための思考ツールが示されている。(1年p.180-181)</p>	<p>○巻末に「まなびの記録」が設けられ、1年間の学びを振り返ったり、なりたい自分の姿をイメージできたりするよう工夫されている。(全学年巻末)</p> <p>○各教材の「考えよう」では、めあてと2つの問いが示されている。何を学ぶのか意識できるように、「見方を変えて」や「つなげよう」の問いもあり、多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。(1年p.14)</p>
0	<p>○35時間分の教材が用意されており、学校の年間行事や生徒の発達の段階を踏まえて、教材・コラムがバランスよく配列されている。(全学年目次)</p> <p>○巻頭の「道徳科での学びを始めよう！」では、道徳科を学ぶ意義や学習内容、学び方が掲載され、見通しをもって学習に取り組むことができるよう配慮されている。(1年p.4-7)</p>	<p>○全学年で「よりよい社会を考える」「いじめと向き合う」がユニット化されている。また、2つのユニットは、年間を通して複数の教材から多面的・多角的に考えられるよう構成されている。(全学年目次)</p> <p>○「学びを深めるヒント」では、付箋を使ったり、イラストを比較したりすることで、対話的・協働的な学びができるよう工夫されている。(1年p.89)</p>	<p>○実在の人物を扱った教材が設けられ、「あすへのメッセージ」として、中学生に贈る書き下ろしのメッセージがあり、考えを深められるよう工夫されている。(3年p.93)</p> <p>○島根県出身の井手上漠さんを題材にした「カラフルな世界で」を取り上げ、個性を尊重することの大切さについて考えられるよう工夫されている。(3年p.90-93)</p>	<p>○各学年の6つの教材に付随している「学びを深めよう」には問題解決的な学習や体験的な学習など学習の流れが示してあり、見通しをもって学習できるよう配慮されている。(3年p.139)</p> <p>○全学年に情報モラルに関わる教材、コラムが掲載され、発達の段階に応じて多様な教材から学習できるよう工夫されている。(2年p.76-81)</p>	<p>○巻末には「内容項目別教材一覧」が示されており、教材と他教科等との関連やいじめなどの「テーマ」との関連が図られるよう工夫されている。(1年p.176-巻末)</p> <p>○コラム「視野を広げて」が各学年に7つずつ配置されており、生徒の実生活に即した内容を扱い、学びが広がるよう工夫されている。(2年p.22-23)</p>	<p>○別冊「道徳ノート」は発問を記入する欄や、自由記述欄が設けられ、指導者の授業展開によって柔軟に活用できるよう工夫されている。</p>	<p>○各教材末の「考えてみよう」には、ねらいに迫る問いが示されており、さらに「自分に+1」の問いを用いて、自分事として考えられるよう工夫されている。(3年p.47)</p> <p>○別冊「道徳ノート」は教科書本冊に対応しており、発問や自分の考え、振り返りを記述する欄があり、学びを記録することができるよう工夫されている。</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(道徳) No. 3

記号	選定に必要な資料の観点					総括	
	1 内容, 程度, 分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 教科の特性、地域の実態や課題への適合等	5. 各教科及び実生活との関連についての工夫		6. その他
U	<p>○内容項目の順番に教材を配置し、自校の計画や実態に合わせて教材を選ぶことができるよう工夫されている。(全学年目次)</p> <p>○全学年の振り返りや授業の進め方を示し、全学年の巻頭にガイダンスページを設けることで、見通しをもって生徒が学習できるよう工夫されている。(全学年p. 4-6)</p>	<p>○全学年巻末にウェルビーイングカードを取り入れ、自分の気持ちに合うカードを選ぶことで生徒が考えやすくなり、生徒同士で議論したりできるよう工夫されている。(全学年巻末)</p> <p>○各教材で主題名をあえて示さないようにすることで、生徒が先入観をもたず素直な気持ちで考えることができるよう配慮されている。(3年p. 79)</p>	<p>○ドラマ仕立ての動画教材や導入動画やマンガの吹き出しなどを取り入れ、生徒の興味・関心が高まるよう工夫されている。(2年p. 107-110, 3年p. 7)</p> <p>○報道でも取り上げられているSNSでの誹謗中傷や生成AIを用いた宿題の取組等、身近な課題が設けられ、深く考えられるよう工夫されている。(2年p. 12-15, 3年p. 84-87)</p>	<p>○生徒がいじめについて深く考えることができるように、様々な立場からいじめをとらえることができるよう工夫されている。(3年p. 75-78, 84-87)</p> <p>○県の実態に合わせた題材として、島根県出身である森英恵さんの信念を紹介し、自身のルーツを大切にすることを育てることができる題材が設定されている。(1年p. 112-115)</p>	<p>○キャリア教育の視点などを踏まえ、これからの自分の生き方を考え深めるために、学年ごとの発達段階を考慮したテーマが採用されている。(3年p. 40-43)</p> <p>○学校行事以外にも、啓発月間や習慣行事に沿った授業計画ができるよう教材が選択され、実生活との関連が図れるよう工夫されている。(全学年目次)</p>	<p>○「自由」や「幸福」など大きなテーマについて、哲学者の考えに触れながら考え議論する教材が取り上げられており、自身の考えをより深められるように工夫されている。(1年p. 36-40, 2年p. 34-38, 3年p. 44-48)</p>	<p>○内容項目ごとに教材を配列することで、各学校の年間計画や、生徒の実態に応じて教材が選択できるように工夫されている。(全学年目次)</p> <p>○ウェルビーイングカードを用いることで、自分の考えを表現しやすくしたり、生徒自身が大切にしたい価値をより意識したりすることができるよう工夫されている。(1年p. 156)</p>
P	<p>○35時間分の教材が用意されている。教材に応じて補充資料「クローズアップ」を配置し、教材の関連情報が掲載され、広く学ぶことができるよう工夫されている。(全学年目次)</p> <p>○巻頭の「道徳科で学ぶこと考えること」では考えを広げたり深めたりするための方法や学習の流れが示されており、多様な方法で学びを深められるよう工夫されている。(全学年p. 8-9)</p>	<p>○「SDGs」「キャリア」「多様性」の3つがユニット学習として用意されており、それぞれを内容項目の異なる教材から構成することで多面的・多角的に考えられるよう工夫されている。(1年p. 46-61)</p> <p>○各教材で主題名を示さないようにすることで、生徒自身が自ら課題を見つけ考えられるよう工夫されている。(1年p. 10-12)</p>	<p>○全ての教材名の下に「キーワード」を入れ、授業の導入時に生徒の興味・関心が高まるよう工夫されている。(1年p. 10-12)</p> <p>○大田市三瓶町での出来事を取り上げた教材「金色の稲穂」が設けられている。県内の題材を取り上げることで、生徒の興味・関心が高まるよう工夫されている。(1年p. 90-93)</p>	<p>○いじめについて様々な立場から考えられるよう、「青のオーケストラ」など複数の教材を配置している。(2年p. 122-129)</p> <p>○「世界中で愛される日本生まれのもの」について考える教材では、具体的な製品の由来や性能が紹介され、ものづくりについて深く学べるよう工夫されている。(2年p. 78-81)</p>	<p>○教材の発展的な内容や他教科との関連を図った内容、関連書籍が「クローズアップ」の特設ページで掲載されている。(3年p. 94-95)</p> <p>○著名な人物のライフスタイルを題材として取り上げ、「デジタルとのつきあい方」について深く学べるよう工夫されている。(3年p. 10-12)</p>	<p>○日本の各地域に関連した内容が教材化されている。島根県の中学生作文が取り上げられており、キャリア教育の視点と関連が図られている。(1年p. 90-93)</p>	<p>○各教材の「考えよう」では、ねらいに迫る問いが2つ用意されている。また、「深めよう」では教材をもとに考えを深め、広げることができるよう工夫されている。(1年p. 142-145)</p> <p>○学期ごとの学びを振り返る「学びの記録」や1年間を振り返り、次年度に生かす「未来への扉」を記入することで、自己の変容を生徒自身が確かめることができるよう工夫されている。(1年p. 180-185)</p>

選 定 に 必 要 な 資 料

(道徳) No. 4

記号	選定に必要な資料の観点					総括	
	1 内容, 程度, 分量等	2. 題材の選択や構成等	3. 興味・関心への配慮等	4. 道徳の特性, 地域の実態や課題への適合等	5. 教科横断的及び学校行事等とのつながりへの工夫		6. その他
T	<p>○学校の教育活動や年中行事との関連を考慮して35時間分の教材が配列されている。またユニットを組み、重点項目について生徒の考えが深まるよう工夫されている。(全学年目次)</p> <p>○全学年、最初の教材に「道徳はじまりの時間」が設けられ、道徳科での1年間の学びの指針が発達の段階に応じて学年ごとに示されている。(1・2年p. 6-11, 3年p. 6-8)</p>	<p>○現代的課題をテーマとし、「『いじめ』を考える」等、連続する複数の教材をユニット化し、テーマについて様々な視点から考えを深められるよう構成されている。(全学年目次)</p> <p>○1つの学年につき3つの「MY PLUS」が設定されており、役割演技や話し合い活動を通してより深く考えることができるよう工夫されている。(1年p. 34-35)</p>	<p>○3年間で全都道府県の情報を取り上げられている。「ふるさとに学びを広げよう」では、島根県の石見銀山遺跡とその文化的景観が紹介され、地域への興味・関心が高まるよう工夫されている。(3年p. 182-183)</p> <p>○「日本探しの旅」では、日本のアニメ、風景、祭りなどの伝統文化についての写真やイラストが掲載されており、関心を高める工夫がされている。(1年p. 122-125)</p>	<p>○実際に起きた事件を情報モラル教材として取り上げ、生徒が自分事として考えを深められるよう工夫されている。(1年p. 64-67)</p> <p>○「おかしな礼儀」では日常生活の場面を取り上げ、あいさつやマナーについて、その意義やあり方について深く考えられるよう配慮されている。(1年p. 14-17)</p>	<p>○「Thinking」というコラムページが、各学年8～10本用意されている。教材で学習したことを深めたり、広げたりするとともに、実生活につなげるよう工夫されている。(2年p. 58)</p> <p>○巻末の「内容一覧」では、各教材と他教科等との関連が示され、道徳科との関連が図られるよう配慮されている。(全学年p. 184)</p>	<p>○全ての教材の終末に「自分との対話」が設けられており、教材での学びを踏まえて自分を問い直すことができるよう工夫されている。</p>	<p>○生徒が先入観をもたずに教材と出会うよう、冒頭部分には内容項目をマークで掲載し、主体的に考えを深めることができるよう配慮されている。(全学年)</p> <p>○巻末には「学習の記録」のページが設けられ、各学期や1年間の学びを振り返り、生徒自身が自己の学びの変容を捉えられるよう工夫されている。(全学年巻末)</p>